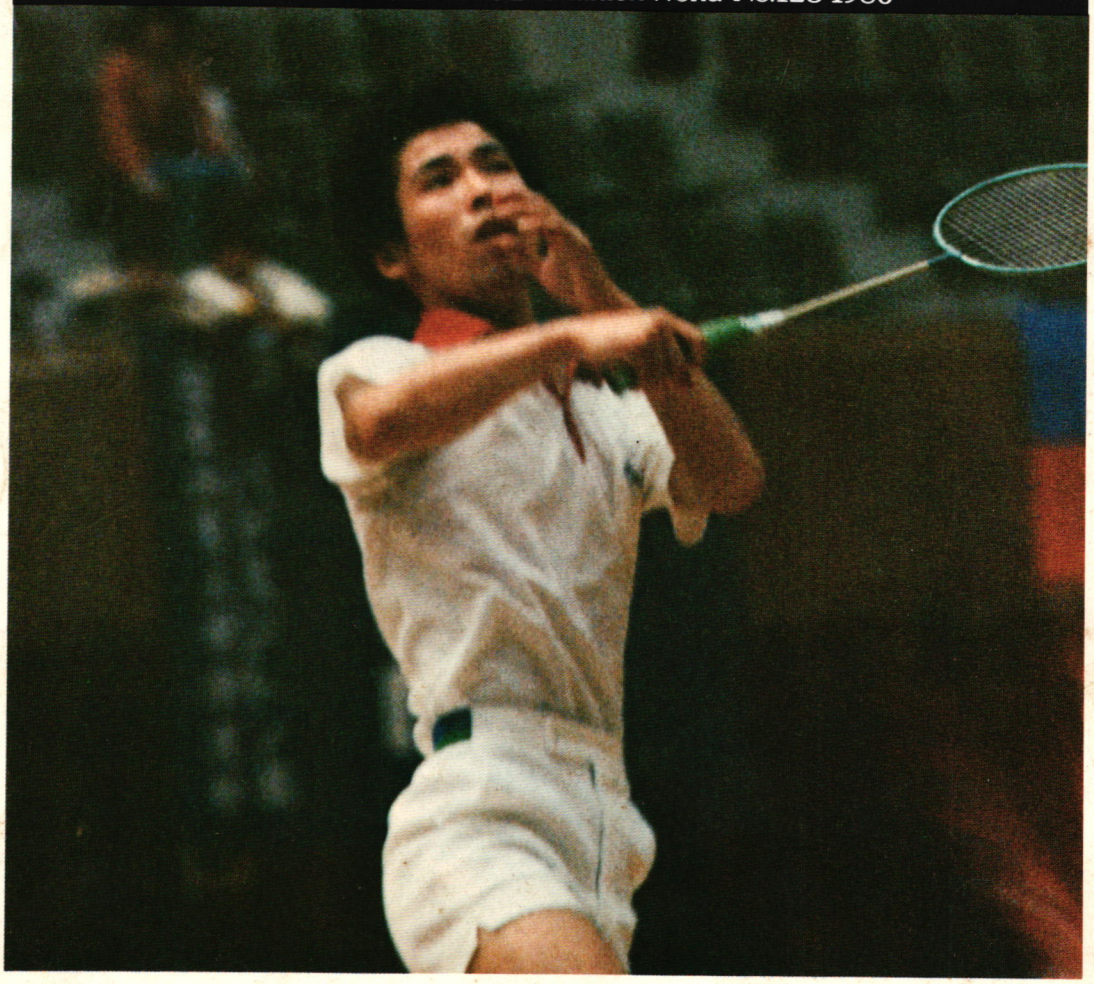
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和55年1月15日発行（毎月1回15日発行通巻第123号）

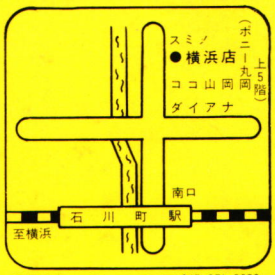
バドミントン1

日本バドミントン協会　The Badminton World No.123 1980

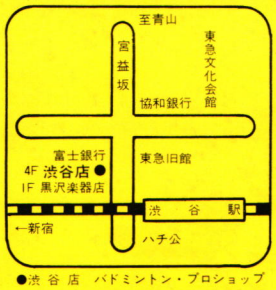




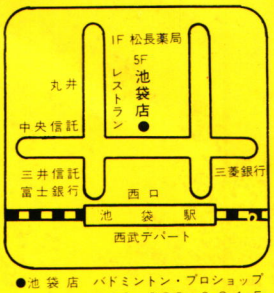
●吉祥寺店　バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●横浜店 5F テニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4F バドミントン・フロア
☎ 045-662-7133



●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215

ラケットショップ元町

はずめ'80 有頂天の彼方へ!!







いよいよスタート

第1回バドミントン
日本リーグ









男子優勝は ヨネックス

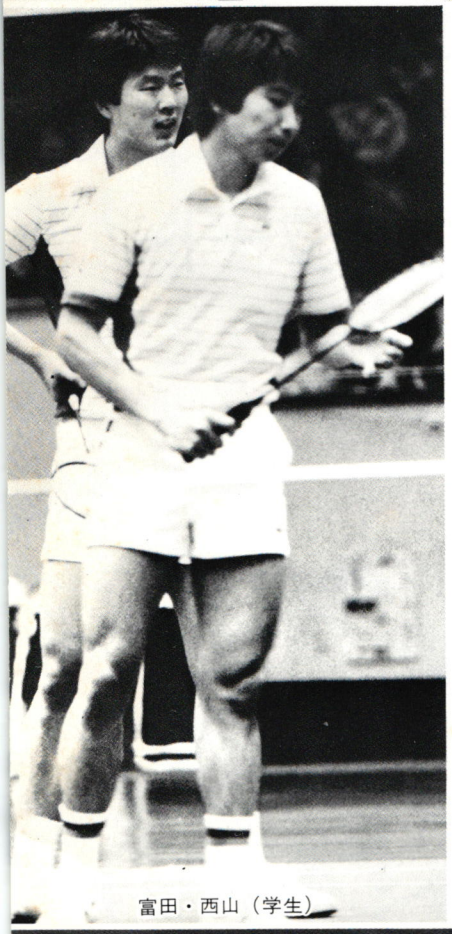


ヨネックスチーム


息の合った学生の応援

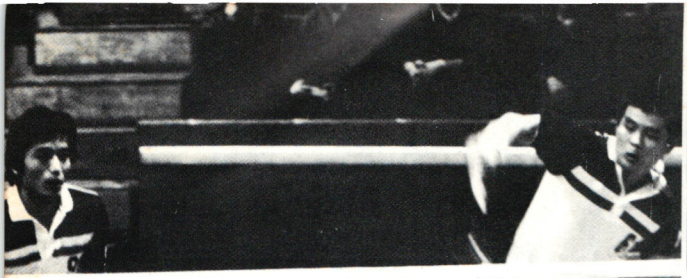


米（高岡市役所）


富田・西山（学生）


栂野尾・飯野（ヨネックス）

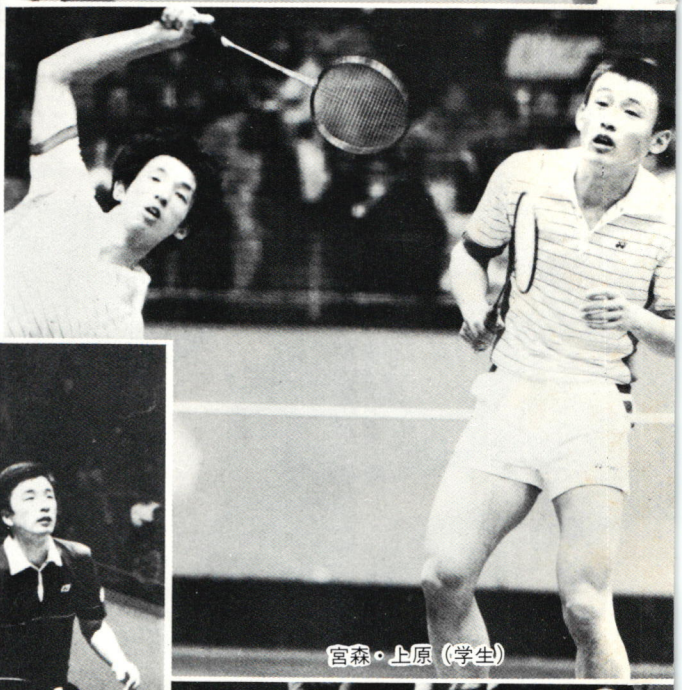

今泉・米沢（高岡市役所）





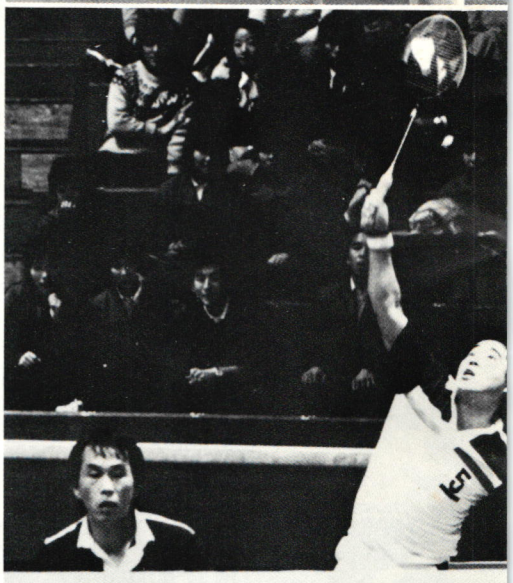
斉藤・中井（カワサキ）


大場・辻（ヨネックス）


宮森・上原（学生）



池田・尾崎（電電東京）





高岡市役所の地元大応援団

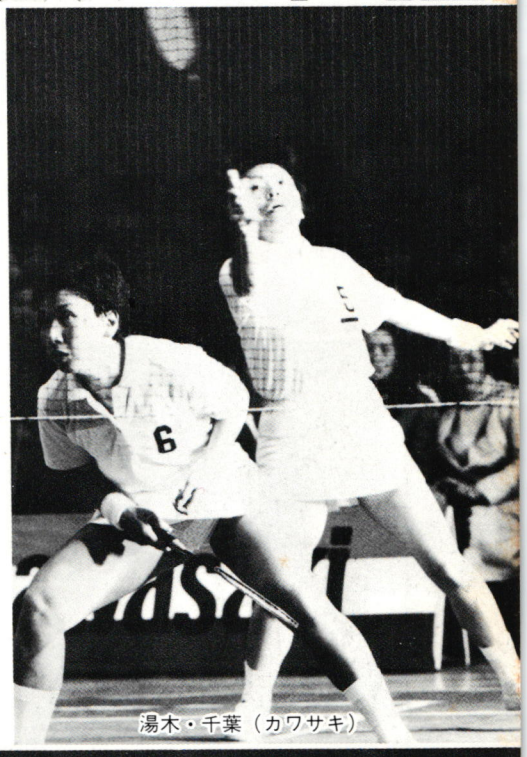

今井・角田（カワサキ）

女子はサントリー


徳田・高田（サントリー）



サントリーチーム


湯木・千葉（カワサキ）


飾野（ヨネックス）


東海林（サントリー）



作戦タイムもOK


石田・渡辺（学生）


近藤（カワサキ）


明日があるさ


「頑張れよ」「はい」

バドミントン1

❶ グラフ 第1回日本リーグ	㉙ ヨーロッパ情報 賞金の行方は？
❻ 日本リーグ 男子優勝・ヨネックス	㉚ '79オールジャパン 銭谷堂々5度目、新女王〝米倉〟誕生
❿ 日本リーグ 女子優勝・サントリー	㉜ '79オールジャパン 池田組念願成就、徳田組快調な出航
⓮ 第30回インカレ 中大11度目、日体大混戦を断つ	㉞ 公認審判員の資格について
⓰ 第30回インカレ 冨田・酒井伝統守る、河村・平組粘り抜く	㊲ 座談会 新学連大いに語る
⓲ 第30回インカレ 初優勝・坂本快進撃、石田2連覇達成	㊵ 関西リーグ 近大22連勝の偉業、四条畷短は完全優勝
⓴ 全国の指導者へ 新潟青陵高・佐藤秀夫	㊷ TOKYO LETTER
㉒ バドミントンの用語ＡＢＣ／後藤忠弘 Ｄ～Ｃの部	㊹ 海外トピックス マスターズ・オープンあれこれ

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝第30回全日本学生バドミントン選手権大会、男子シングルスを制した坂本宏志選手(日大)　撮影＝赤星三樹

BADMINTON 日本リーグ

第1回バドミントン・日本リーグ　男子

いよいよスタート、記念すべき優勝はヨネックス

ヨネックスは、戦前から予想された優勝争いの最大の敵・電電東京と、早くも初日の代々木第2体育館で相対することになった。

オーダーを見ると、いずれも一筋縄ではいかない好試合が予想され、第1試合、栂野尾・飯野組対池田・尾崎組の対戦が大きく明暗を分けると思われた。

オールジャパンを制し、意気上がる池田組に対し、栂野尾組は立ち上がりから気迫あるプレーで圧倒、久しぶりに栂野尾のスマッシュも当りが鋭く、飯野との攻撃型コンビが爆発。

第1ゲームは終始リードのまま先取、第2ゲームも10オールまで競り合ったが、最後まで攻撃力は衰えず、パワーで押し切って貴重な一勝をもたらした。

長谷川対土田は、'78オールジャパン準々決勝以来の対戦、1年間の長谷川の成長を計る絶好の舞台となった。

速攻の土田に対し、長谷川はクリアーとカットを四隅に散らして応戦、第1、第2ゲームとも10オールとなる激戦が続いた。

第1ゲームを失い、土俵際まで追いつめられた土田は、この日試合開始から元気のない表情だったが、第2ゲームは果敢に打ってタイ。

ようやくエンジンのかかった土田は、第3ゲーム快調に飛ばして、長谷川は0—7と苦境に立たされた。

しかし、勝負を捨てない長谷川は、懸命の粘りを見せて6—7、再び7—12と引き離されたものの、今度は力強いスマッシュを繰り出して、返球の浅くなった土田を攻め14オールと追いついてしまった。

セッティングでも長谷川は、0—2と窮地に立たされたが、勝ちを急いだ土田がチャンスボールと思えるヘアピンを連続ミス、労せずして勝利を収めた。

この2勝こそ、ヨネックス優勝のすべて。

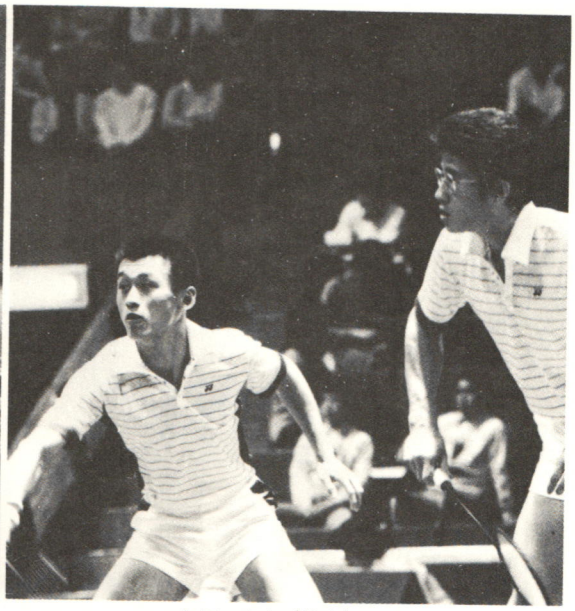
栂野尾・飯野組は、最終日の学生ペア、冨田・酒井組に不覚



田所・野本（電電東京）



場内サービスも満点（高岡市）



上原・宮本（学生）

をとり、長谷川は銭谷に敗れて全勝は逃がしたものの4勝。

大場・辻組も、勝負が決ってからの1敗のほかは、肝心なところを締めて4勝、団体戦における〝チームワーク〟を充分に発揮したといえよう。

第1回を飾ったヨネックス・梅野尾昌一監督は「第1回目ということは別に意識していなかった。若手の長谷川が頑張ってくれたし、新旧がよく噛み合ってチームワークがとれていました。どの大会も試合はみな一緒ですが、今度は全員燃えていました。」

電電東京は、最後まで初日のヨネックス戦の敗戦がたたって第1回目の記念すべき大会を飾ることができなかった。

池田・尾崎組、土田に不覚の取りこぼしがあっては、それもやむをえない結果。

池田監督は、「オールジャパンとワールドカップの谷間で、コンディション作りを失敗した。オールジャパンに勝って気が抜けたことも確か。気を引き締めて出直しだ。」と素直に敗因を語ったが、オールジャパンから続くふた月近い試合の連続を考えると、これから時期的に非常に難しい問題をかかえているといえよう。

土田も、オールジャパン制覇の念願がまたしてもお預け、その直後だっただけに精神的な立ち直りの期間が欲しかったところか。

長い間、ベンチを暖めていた野本は、今大会で田所と組んで出場。

初日、決着のついた後ではあったが、大場・辻組を相手にしぶとい粘りを発揮、大場組の角度あるスマッシュを拾いに拾って逆転したあたり、貴重な戦力に成長した。

スタートから、メンバーの構成に四苦八苦だった全日本学生は、3試合目の高岡市役所戦で、西山がスマッシュ力をフルに生かして米を撃破、急造ペアの宮森・上原組がベテランの関村・牧野組を接戦の末降して片目を開けた。

上原の堅実なレシーブと、宮森のエネルギッシュなスマッシュが、急造ペアとは思えない回転を見せ、追いすがる高岡ペアを突き放した。

学生チームは、ダブルスにそれぞれ大接戦。

銭谷・中井組に冨田・酒井組が、今井・斉藤組に上原・宮森組が善戦、実業団上位の常連にあと一歩と迫った。

最終戦、対ヨネックス戦では、これも急造ペア冨田・西山の大砲コンビが、エース梅野尾・飯野にストレート勝ちを収め、宮森・上原組も大場・辻組と大激戦を演じるなど、ややエンジンのかかりが遅い感があった。

冨田組は、打ってはヨネックスペアを上回る破壊力を見せ、守っても冨田が上手くハーフへ落とすなど完璧、これからの学生チームにとって大きな意義のある1勝だった。

カワサキは、銭谷のシングルスしか星勘定できないことが何としても痛い。

今井、斉藤、中井とテクニシャン揃いなのだが、ありありと練習不足がうかがえる。

最終日、今井・斉藤組が、池田組に善戦したように、まだまだその実力は捨て難いものがあるだけに、今回の4位という成績は腑甲斐ないといえよう。

高岡市役所も、米の加入で健闘したが、やや平均年齢の高い感があったのは免がれない。

しかし、パワーこそないものの、高岡市民の声援を一身に受けて、いぶし銀のようなプレーを見せてくれた。

第１回バドミントン・日本リーグ男子成績表

順位	チーム名	ヨネックス	電電東京	全日本学生	カワサキ	高岡市役所	勝ち点
1	ヨネックス		○２－１ 樽野尾 飯野 2 (15－7, 15－10) 0 池田 尾崎 長谷川 2 (15－10, 12－15, 17－16) 1 土田 大場 辻 1 (15－4, 9－15, 10－15) 2 田所 野本	○２－１ 樽野尾 飯野 0 (13－15, 9－15) 2 冨田 西山 長谷川 2 (15－10, 15－2) 0 宮本 大場 辻 2 (18－17, 17－14) 0 上原 宮森	○２－１ 樽野尾 飯野 2 (15－5, 15－8) 0 今井 斉藤 長谷川 1 (15－7, 6－15, 11－15) 2 銭谷 大場 辻 2 (15－9, 15－10) 0 中井 角田	○３－０ 樽野尾 飯野 2 (15－7, 15－11) 0 今泉 米沢 長谷川 2 (15－6, 15－9) 0 米 大場 辻 2 (15－4, 15－6) 0 関村 牧野	4
2	電電東京	●１－２ 池田 尾崎 0 (7－15, 10－15) 2 樽野尾 飯野 土田 1 (10－15, 15－12, 16－17) 2 長谷川 田所 野本 2 (4－15, 15－9, 15－10) 1 大場 辻		○２－１ 池田 尾崎 2 (15－10, 15－7) 0 冨田 酒井 土田 2 (15－4, 15－8) 0 西山 田所 野本 1 (15－7, 7－15, 12－15) 2 上原 宮本	○２－１ 池田 尾崎 2 (10－15, 15－12, 15－5) 1 今井 斉藤 野本 0 (3－15, 4－15) 2 銭谷 土田 田所 2 (15－0, 15－4) 0 中井 角田	○２－１ 池田 尾崎 2 (15－6, 15－9) 0 今泉 米沢 土田 2 (15－5, 15－9) 0 米 田所 野本 1 (15－8, 11－15, 7－15) 2 関村 牧野	3
3	全日本学生	●１－２ 冨田 西山 2 (15－13, 15－9) 0 樽野尾 飯野 宮本 0 (10－15, 2－15) 2 長谷川 上原 宮森 0 (17－18, 14－17) 2 大場 辻	●１－２ 冨田 酒井 0 (10－15, 7－15) 2 池田 尾崎 西山 0 (4－15, 8－15) 2 土田 上原 宮本 2 (7－15, 15－7, 15－12) 1 田所 野本		●１－２ 冨田 酒井 1 (18－17, 11－15, 5－15) 2 銭谷 中井 西山 2 (15－3, 15－1) 0 角田 上原 宮本 1 (15－10, 7－15, 15－12) 2 今井 斉藤	○２－１ 冨田 酒井 0 (7－15, 6－15) 2 今泉 米沢 西山 2 (15－11, 15－7) 0 米 宮森 上原 2 (15－11, 18－15) 0 関村 牧野	1
4	カワサキ	●１－２ 今井 斉藤 0 (5－15, 8－15) 2 樽野尾 飯野 銭谷 2 (7－15, 15－6, 15－11) 1 長谷川 中井 角田 0 (9－15, 10－15) 2 大場 辻	●１－２ 今井 斉藤 1 (15－10, 12－15, 5－15) 2 池田 尾崎 銭谷 2 (15－3, 15－4) 0 野本 中井 角田 0 (0－15, 4－15) 2 土田 田所	○２－１ 銭谷 中井 2 (17－18, 15－11, 15－5) 1 冨田 酒井 角田 0 (3－15, 1－15) 2 西山 今井 斉藤 2 (10－15, 15－7, 15－12) 1 上原 宮本		●１－２ 斉藤 中井 0 (2－15, 12－15) 2 今泉 米沢 銭谷 2 (15－4, 15－5) 0 米 今井 角田 0 (6－15, 11－15) 2 関村 牧野	1
5	高岡市役所	●０－３ 今泉 米沢 0 (7－15, 11－15) 2 樽野尾 飯野 米 0 (6－15, 9－15) 2 長谷川 関村 牧野 0 (4－15, 6－15) 2 大場 辻	●１－２ 今泉 米沢 0 (6－15, 9－15) 2 池田 尾崎 米 0 (5－15, 9－15) 2 土田 関村 牧野 2 (8－15, 15－11, 15－7) 1 田所 野本	●１－２ 今泉 米沢 2 (15－7, 15－6) 0 冨田 酒井 米 0 (11－15, 7－15) 2 西山 関村 牧野 0 (11－15, 15－18) 2 宮森 上原	○２－１ 今泉 米沢 2 (15－2, 15－12) 0 斉藤 中井 米 0 (4－15, 5－15) 2 銭谷 関村 牧野 2 (15－6, 15－11) 0 今井 角田		1

（注）３～５位は勝ち点同数であるが、全日本学生＝取得試合５、取得ゲーム12、カワサキ＝取得試合５、取得ゲーム11、高岡市役所＝取得試合４により順位を決定。



RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

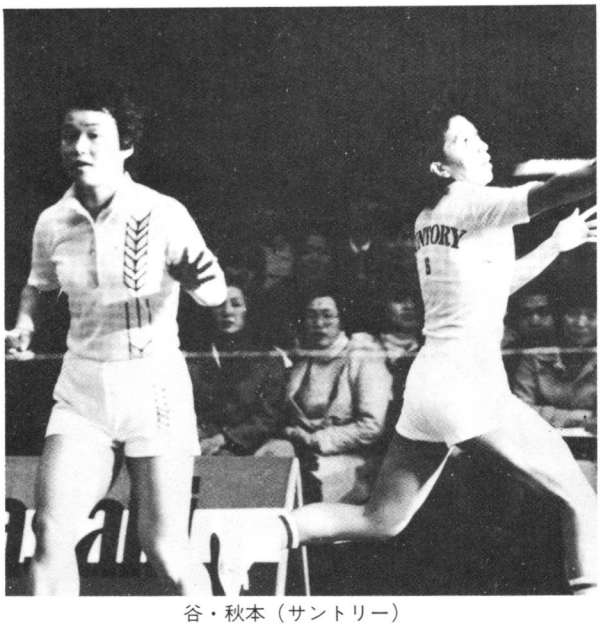
東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

BADMINTON 日本リーグ

第1回バドミントン・日本リーグ　女子

サントリー、地元の声援に応えて第1回を飾る。



谷・秋本（サントリー）

サントリーの優勝は大方の予想通り。

創部以来負け知らずを続ける団体戦で、今大会も層の厚さを充分に発揮、どこからでも得点できる強さを見せた。

しかし、最終日の地元大阪でのカワサキ戦は大接戦、最後まで予断を許さない緊迫した場面を迎えた。

発熱を押して出場した徳田と、これをカバーする気持ちが強過ぎるのか、高田も軽快な動きが見られず、第1ゲームから3―10と苦戦を強いられた。

数々のタイトルを持つ徳田組は、ここで身上の粘り腰を見せ逆転を図り、カワサキペアのスマッシュミスを誘って追いついた。

第1ゲームを先取して安心したのか、徳田組は第2ゲームになると動きの重さが目立つ凡ミスの山。

体が動かない分、腕力で誤魔化すようなプレーで、守勢に回る一方、0―10のピンチを迎えた。

この試合を失うと、後の試合の結果次第では優勝の行方が混沌となる大事な一戦だけに、徳田組はここから必死の形相となった。

体育館を埋める大観衆の声援を受け、ジリジリと挽回、9―11、13―14と両チームの応援合戦も一段と熱を帯び、一球一打にリーグ戦の面白さを満喫させた。

結局、第2ゲームの逆転は成功しなかったが、大差を追い上げた勢いがファイナルゲームに繋がった格好。

第3ゲームは、3オール、5オールと一進一退が続いたが、中盤から辛棒を重ねて持久戦スマッシュ力に劣るカワサキペ

アの疲れを誘い、前後左右に揺さぶる長いラリーで、ペースを完全に自分のものとした。

幸先よいスタートを切ったサントリーだったが、カナダ・オープンを制しシングルスに充実著しい東海林が、スピードの戻った近藤のカットショットを拾えず苦敗、賜杯の行方は最後の最後まで楽観できない、団体戦ならではの盛り上がりを呈した。

安定した実力を誇る第2ダブルス谷・秋本組は、第1ゲーム、谷のスマッシュがよく決まり先取。

第1回優勝は、ほぼサントリーが掌中にした感があった。

しかし、ここからがまた難行苦行。

カワサキペア、スピードをを殺した軟攻に戸惑い、歯切れのよいコンビネーションが乱れ始め、迷いさえうかがえた。

そして問題のファイナルゲーム。

このゲームに勝った方が優勝という大一番、前半はカワサキペアのペースで試合が進められたが、谷組は徐々に地力を発揮、長いラリーに持ち込んでペースを奪い返すと、谷のスマッシュにも当たりが出始め、第1回を飾る一戦に終止符を打った。

団体戦の強さを実証したサントリー・山本次生監督の話……記念すべき第1回大会だったので是が非でも優勝したかった。特に秋本は今回が最後なので、優勝を決めたことだし、よくやってくれました。全員がそれぞれ持ち場通りの働きをしてくれ、大阪の皆さんに優勝の瞬間をお見せできたことで、何も言うことはありません。

☆　☆　☆

ヨネックスは、栂野尾夫人の復帰があってダブルスに充実、栂野尾、土田、飯野、関根、大塚と、ダブルス得意のプレーヤーを、どう組み替えても戦える強みはあったが、シングルス・プレーヤーの不在が致命的。

全試合を通して、シングルスに1勝では、これから強化しなければならない課題だろう。

しかし、サントリー戦では大塚が頑張り、東海林と死闘を繰り広げ、文字通り〝あと一歩〟の激戦、これに勝っていれば優勝がころがり込んでいた、悔んでも悔み切れない一戦だった。

飯野も、しばらくシングルスから遠ざかっていた分、体力的なハンデが隠せなかった。

しかし、栂野尾、土田が依然健在ぶり示し、勘さえ取り戻せば中心選手としての活躍が望めるだけに、次回の挑戦が期待されるところ。

カワサキは、前述のサントリー戦の敗戦が、今大会のすべてを物語っていたが、サントリー戦がそうだったように、ヨネックス戦でも第1ダブルスを落とす苦しい戦い。

ヨネックスとは対照的に、湯木、近藤のシングルス巧者はいるが、ダブルスに核となる選手が見あたらず、いい試合はするが勝てない弱点を暴露してしまった。

〝若々しさ〟が売り物で登場した、日本電装と全日本学生は、それぞれ趣きを異にしたチームカラーで〝大会の花〟的存在になった。

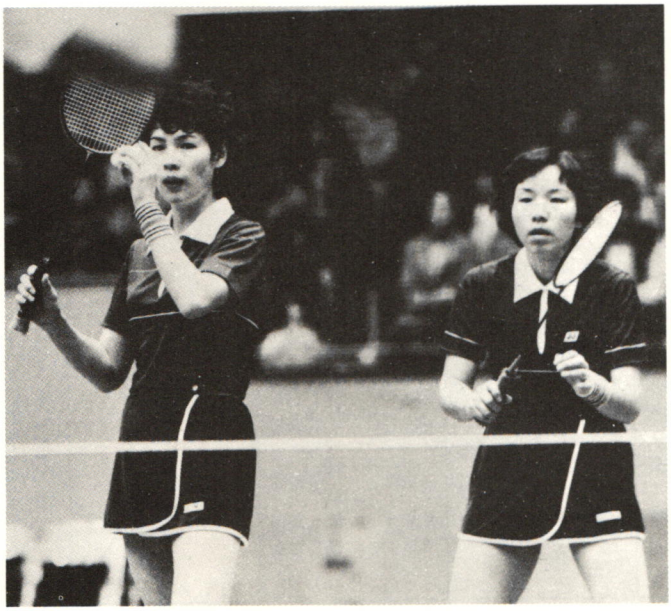
学生チームは、高校時代から期待され、いわゆる〝エリート街道〟を歩んできた有望選手だったが、社会人との技術差は歴然。

これを機会に、技術は勿論、試合運び、かけ引きなど、実際にラケットを交えた中で学んで欲しい点は多い。

電装チームは、平均年齢19・5歳という若さ。

創部3年目の参加で〝全員大観衆の前での試合は初めて、終始緊張した面持ち、地に足が着かない様子は、見ていても気の毒なくらいだったが、水谷・加塩のペアが、学生チームから1ゲームを奪い、シングルスの片山が飯野から1ゲーム、高岸とは接戦に持ち込むなど、素質の片鱗を見せた。

大試合を経験したことで、吸収の早い年齢、次回の試合ぶりを大いに期待したいものだ。



栂野尾・土田（ヨネックス）

第１回バドミントン・日本リーグ女子成績表

順位	チーム名	サントリー	ヨネックス	カワサキ	全日本学生	日本電装	勝ち点
1	サントリー		○2－1 徳田 2 (15－5, 15－0) 0 樽野尾 高田 2 (15－5, 15－0) 0 飯野 東海林 2 (11－12, 12－11, 11－8) 1 大塚 谷 秋本 1 (15－10, 10－15, 3－15) 2 土田 関根	○2－1 徳田 高田 2 (15－11, 13－15, 15－7) 1 湯木 千葉 東海林 0 (4－11, 2－11) 2 近藤 谷 秋本 2 (15－5, 8－15, 15－5) 1 渡辺 沢内	○3－0 徳田 高田 2 (15－11, 15－10) 0 高岸 川島 東海林 2 (11－6, 11－2) 0 石田 谷 秋本 2 (15－6, 11－15, 15－9) 1 月岡 柴田	○3－0 徳田 高田 2 (15－1, 15－2) 0 水谷 加塩 原口 2 (11－3, 11－3) 0 片山 谷 東海林 2 (15－0, 15－3) 0 松原 小田	4
2	ヨネックス	●1－2 樽野尾 飯野 0 (5－15, 0－15) 2 徳田 高田 大塚 1 (12－11, 11－12, 8－11) 2 東海林 土田 関根 2 (10－15, 15－10, 15－3) 1 谷 秋本		○2－1 関根 大塚 2 (11－15, 15－9, 15－6) 1 湯木 渡辺 飯野 0 (1－11, 7－11) 2 近藤 樽野尾 土田 2 (15－12, 15－12) 0 千葉 沢内	○2－1 関根 大塚 2 (6－15, 15－4, 15－7) 1 高岸 川島 飯野 0 (9－12, 6－11) 2 石田 樽野尾 土田 2 (15－2, 15－8) 0 月岡 柴田	○3－0 関根 大塚 2 (15－3, 15－2) 0 水谷 加塩 飯野 2 (7－11, 11－8, 11－5) 1 片山 樽野尾 土田 2 (15－1, 15－2) 0 松原 小田	3
3	カワサキ	●1－2 湯木 千葉 1 (11－15, 15－13, 7－15) 2 徳田 高田 近藤 2 (11－4, 11－2) 0 東海林 渡辺 沢内 1 (5－15, 15－8, 5－15) 2 谷 秋本	●1－2 湯木 渡辺 1 (15－11, 9－15, 6－15) 2 関根 大塚 近藤 2 (11－1, 11－7) 0 飯野 千葉 沢内 0 (12－15, 12－15) 2 樽野尾 土田		○3－0 湯木 渡辺 2 (15－8, 15－8) 0 高岸 川島 近藤 2 (11－5, 11－2) 0 月岡 千葉 沢内 2 (15－10, 10－15, 18－14) 1 石田 渡辺	○3－0 湯木 渡辺 2 (15－1, 15－10) 0 水谷 加塩 近藤 2 (11－2, 11－1) 0 片山 千葉 沢内 2 (15－4, 15－9) 0 松原 小田	2
4	全日本学生	●0－3 高岸 川島 0 (11－15, 10－15) 2 徳田 高田 石田 0 (6－11, 2－11) 2 東海林 月岡 柴田 1 (6－15, 15－11, 9－15) 2 谷 秋本	●1－2 高岸 川島 1 (15－6, 4－15, 7－15) 2 関根 大塚 石田 2 (12－9, 11－6) 0 飯野 月岡 柴田 0 (2－15, 8－15) 2 樽野尾 土田	●0－3 高岸 川島 0 (8－15, 8－15) 2 湯木 渡辺 月岡 0 (5－11, 2－11) 2 近藤 石田 渡辺 1 (10－15, 15－10, 14－18) 2 千葉 沢内		○3－0 石田 渡辺 2 (17－18, 15－10, 15－8) 1 水谷 加塩 高岸 2 (11－9, 11－7) 0 片山 柴田 川島 2 (15－3, 15－8) 0 松原 小田	1
5	日本電装	●0－3 水谷 加塩 0 (1－15, 2－15) 2 徳田 高田 片山 0 (3－11, 3－11) 2 原口 松原 小田 0 (0－15, 3－15) 2 谷 東海林	●0－3 水谷 加塩 0 (3－15, 2－15) 2 関根 大塚 片山 1 (11－7, 8－11, 5－11) 2 飯野 松原 小田 0 (1－15, 2－15) 2 樽野尾 土田	●－3 水谷 加塩 0 (1－15, 10－15) 2 湯木 渡辺 片山 0 (2－11, 1－11) 2 近藤 松原 小田 0 (4－15, 9－15) 2 千葉 沢内	●0－3 水谷 加塩 1 (18－17, 10－15, 8－15) 2 石田 渡辺 片山 0 (9－11, 7－11) 2 高岸 松原 小田 0 (3－15, 8－15) 2 柴田 川島		0

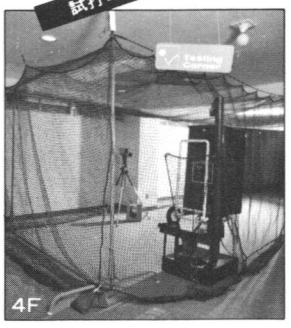
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

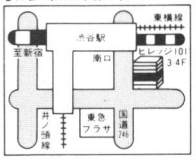
170坪

650㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





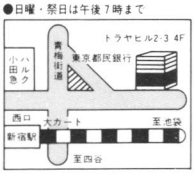
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3-4階）TEL03-464-9251-2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

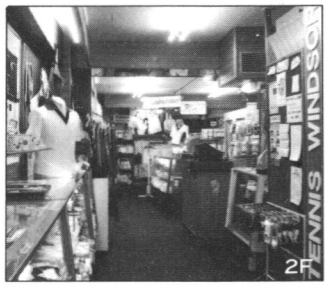


新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの
楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤヒル2.3.4階）TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





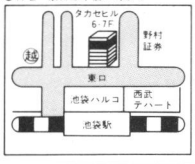




池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

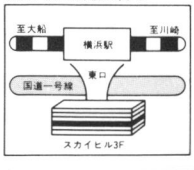
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2-1　横浜駅東口
（スカイヒル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

女子T

日体大、混戦を断つ

▼女子団体2回戦

| | | |

THE 30TH ALL JAPAN INTER COLLEGE

男子T 中大11度目の栄冠、

院に、準々決勝で日大に苦しめられ難産のベスト4入りだった。

早稲田を破って意気上がる青山学院と、苦戦の連続だった日体大の準決勝は、それまでの経過を裏切るように、日体大のストレート勝ち。

殊勲者は、小倉・小浜組を打ち砕いた山本・若生組。

山本のバックハンドのスピン・サービスを武器に、青山学院の出鼻をくじく功績は大であった。

事実上の決勝と思われた中大対法政の準決勝は、ダブルスを得意とする法政に元気なく、第1、第2ダブルスとも中大の一方勝ち、法政としては今一つ気勢の上がらぬ形となった。

中大は、第2ダブルス上原・宮本組の活躍が大きく、決勝でも吉岡・西山組が不覚をとった後、勢いに乗る日体大をくい止め優勝に大きな役割りを果たした。

優勝の中大・吉岡伸浩主将の話……嬉しい。法政戦の第1ダブルスを取っていけると思った。気合いが入っていた。決勝では上原・宮本が頑張ってくれて、よく穴を埋めてくれました。これからは連勝記録を続けて欲しいですね。



日体大チーム

見る機会が少ないので確かなことはいえませんが……。

プレーの上手下手じゃなくて、何か中身がないような、淋しい感じがしますね。

やはり、勝ち残った以上、ベストを尽して試合をして欲しいです。今日は入場料を払って見に来ている人もいるんです。

勝とうする意識が強過ぎるとカラ回りする場合がよくありますが、それとは違うんですね。

試合にエントリーした以上、全力を出し切って欲しい。

全力を出し切れないのなら、エントリーしなければ良い。

それに最近は、シングルス・プレーヤーと、ダブルス・プレーヤーを分け過ぎますね。

シングルス・プレーヤーであるか、ダブルス・プレーヤーであるかは第三者が決めること。

自分から、しかも学生時代にそれを決めつけてしまう風潮は、あまり好ましくないですね。

あくまで〝オールラウンド・プレーヤーを目指す〟ことが大事なことじゃありませんか。



小宮好雄氏

技術的にはもとより、精神的に非常に重要なことだと思います。

プレーの面でも、同じようなことがいえると思います。

それは、セレクト・ミスが多いこと、これもファイティング・スピリッツに欠けているためだと思います。

全体的に、試合の流れを考えないで、衝動的なプレーに終始しているのも、残念なことですね。

我々のトヨタ自工も、最近は低迷しているんですが、ラケット・メーカーにだけ任せていたのでは、真の実業団の意味がなくなるので、昨年の山本君（日大）に続いて今年も坂本君の入社が内定していることだし、再生を期したいですね。

マイナー・スポーツからの脱皮という意味も含めて……。

（小宮好雄氏は、昭和35・36年全日本総合シングルス・チャンピオン。全英選手権には、日本から単身、初参加でベスト8の記録を残した名プレーヤー）

中大チーム



女子複

河村・平組、粘り抜く

▼男子ダブルス4回戦

水内・平野 2—0 西川・上田（早大）（近大）
沼沢・浅沼 2—1 坂本・田村（日体大）（日大）
吉岡・西山 2—0 宮森・峯（中大）（法大）
山本・若生 2—0 小倉・小浜（日体大）（青学大）
田島・岡田 2—1 小林・須貝（大経大）（中大）
上原・宮本 2—0 丹藤・楠美（中大）（法大）
四家・稲垣 2—1 鎌田・坂井（日大）（日体大）
富田・酒井 2—0 橋川・高橋（法大）（早大）

▼同準々決勝

沼沢・浅沼 2（17—16 18—17 12—15）1 水内・平野
山本・若生 2（17—14 17—14）0 吉岡・西山
上原・宮本 2（15—4 15—6）0 田島・岡田
富田・酒井 2（15—4 15—1）0 四家・稲垣

▼同準決勝

山本・若生 2（15—7 15—4）0 沼沢・浅沼
富田・酒井 2（15—7 15—11）0 上原・宮本

▼同3位決定戦

上原・宮本 2（キケン）0 沼沢

▼同決勝

富田・酒井 2（15—9 15—4）0 山本・若生

（富田・酒井組は初優勝）

ここでは、優勝した富田・酒井組の活躍もさることながら、〝羽打ちサービス〟と名付けられたバックハンドからのスピン・サービスで話題を独占した山本・若生組に、まず触れなければならないだろう。

昨年のトマス杯を見学した日体大の学生（沼沢、浅沼、坂井）が持ち帰った最大のプレゼント、これを山本が見事に修得して登場、対戦相手の脅威となるばかりでなく、会場のあちこちで模倣が始まるなど、騒然とした新風が吹き荒れた。

山本・若生組は、団体戦に続いて小倉・小浜組、吉岡・西山組の強豪をストレートで破り、その実力がフロックではないことを証明、冴えわたったのはサービスばかりか、前衛のストップ、スマッシュのコースとも絶好調、監督の関根義雄氏も「あいつら、あんなにダブルスが上手かったかな。」と冗談が出るほどの出来だった。

しかし、実際には「せっかくいいサービスをしても、後の処理が悪ければ何もならない。ダブルスは作ることができるから徹底してやりました。」（関根氏）の言葉通り、前後衛の陣型の良さは随一だった。

ダブルス特訓の成果か、日体大からは膝の故障で体調不十分ながら、沼沢・浅沼組がベスト4へ進出、活気を呈した。

山本・若生組の派手な活躍の陰に隠れてしまったのが優勝の富田・酒井組。

しかし、気の毒な存在とはなったものの、その実力はやはりナンバー1。

名門法政の伝統を受け継いだコンビネーションは安定感があり、攻守ともにまったくソツのない流れを見せた。

特に、大砲となった富田の長身からの角度あるスマッシュ、大胆な動きで前へ出る酒井の切り込み隊長ぶりは素晴らしいものがあった。

上原・宮本組は、地味な目立たないプレーだが、継ぎ球の丁寧さは特筆もの、着実に力をつけてきた堅実派コンビとして注目したい。



河村・平（四条畷短）

THE 30TH ALL JAPAN INTER COLLEGE

男子複 富田・酒井、伝統守る

▼女子ダブルス3回戦

河村・平（四条畷短）	2—0	中島・樋渡（日体大）
鹿野・山沢（日体大）	2—0	豊田・仲田（日女体大）
枝・横田（日体大）	2—1	高岸・小野（日女体大）
石田・渡辺（日女体大）	2—0	小松・皆川（東女体大）
中沢・高野（日体大）	2—0	青木・内田（日女体大）
高岸・川島（東女体大）	2—0	阿部・吉川（天理大）
合川・石田（四条畷短）	2—1	山下・井上（日女体大）
藤井・松枝（日体大）	2—0	柴田・浜田（東女体大）

▼同準々決勝

河村・平	2	0 鹿野・山沢
	(15—6 15—12)	
石田・渡辺	2	1 枝・横田
	(15—2 15—4)	
高岸・川島	2	1 中沢・高野
	(18—15 15—7 16—17)	
藤井・松枝	2	0 合川・石田
	(15—7 15—4)	
高岸・川島	2	0 藤井・松枝
	(15—0 15—9)	
河村・平	2	0 石田・渡辺
	(15—3 15—3)	

▼同準決勝

河村・平	2	1 高岸・川島
	(15—11 15—9)	
石田・渡辺	2	1 藤井・松枝
	(15—7 12—15 18—13)	

▼同決勝

河村・平	2	0 高岸・川島
	(15—11 15—9)	

（河村・平組は初優勝）

▼同3位決定戦

石田・渡辺	2	1 藤井・松枝
	(15—7 12—15 18—13)	

関西の雄、河村・平組が並みいる関東の強者をなぎ倒して、1ゲームも落とすことなく、完璧な〝試合巧者〟ぶりを発揮、久々3年ぶりにタイトルを関西に持ち帰った。

身長1メートル53、体重48kgの河村、同じく1メートル57cm、54kgの平と、ともに小柄で非力な面を旺盛な勝負根性でカバー、関東勢の攻撃を上回る粘りを見せた。

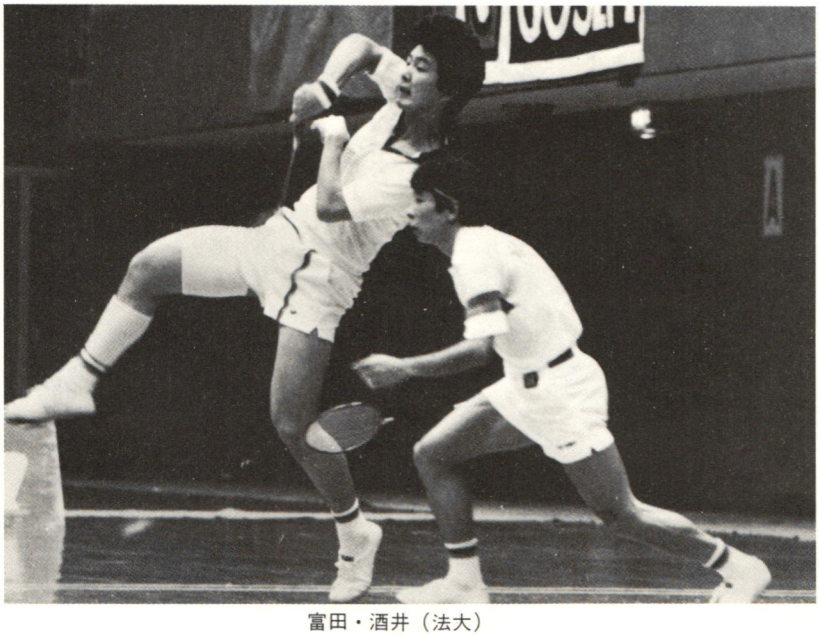
「一日試合をすると体重が2kgは減ってしまう」（河村・平談）ほど激しいラリー、長いラリーが多くなる決定打のない悲しさを見事に克服、インターハイと同じコンビでインカレを制するという珍らしいケースとなった。

関東勢は、河村・平組に比べ攻撃力では遜色ないものの、レシーブ力、コンビネーションの点で今一歩の感は免れない。

今大会随一の攻撃力を誇る高岸・川島でさえ、固い守りを打ち崩すことができず、却って長いラリーの末逆襲に合って攻め込まれ、弱点の守りを暴露する結果となった。

しかし、高岸・川島組は持ち前のパワーとスピードを生かし、積極的な攻撃で終盤まで互角、東西の対決にふさわしい決勝戦となった。

優勝の河村茂義・平久美子選手の話……ミスが少なくて、調子は良かった。決勝の第2ゲームがきつかった。自分達のペースで試合を進められたのが良かった。勝てて本当に嬉しい。



富田・酒井（法大）

女子単

石田、2連覇達成

▼男子シングルス5回戦

吉岡 伸浩（中大） 2—0 田島 裕司（大経大）
林田 章樹（青学大） 2—0 宮森 庄吉（法大）
丹藤 勇一（法大） 2—1 小浜 充弘（青学大）
酒井 直人（法大） 2—0 久郷 俊明（法大）
富田 章夫（法大） 2—0 上原 明（中大）
細谷 志美（中大） 2—0 沼沢 隆（日体大）
坂本 宏志（日大） 2—0 北橋 進（日体大）
西山 博司（中大） 2—0 西川 慎一（近大）

▼同準々決勝

林田2 15—15 15—6 0吉岡
酒井2 15—7 15—6 0丹藤
細谷2 15—5 15—6 0富田
坂本2 17—15 15—10 0西山

▼同準決勝

酒井2 15—15 15—10 2—0 林田
坂本2 15—15 7—15 15—10 4—15 1細谷

▼同3位決定戦

細谷2 10—15 15—11 15—10 1林田

▼同決勝

坂本2 15—15 6—15 0酒井

（坂本は初優勝）

優勝候補の最右翼、西山が準々決勝で破れるという破乱が生まれた。

番狂わせの主役を演じたのは伏兵・坂本。

膝を痛めて、持ち前のスマッシュ、ネットプレーに日頃のスピードを欠く西山の攻撃を、鋭いレシーブで切り返して、逆に攻め込む試合展開で、溢れんばかりの気力を示した。

第2ゲームは、西山の奮起にセッティングにもつれ込む熱戦となったが、冷静なレシーブ、果敢な攻撃に冴えをみせて、見事なストレート勝ちを収めた。

これも優勝候補の一角、宮森は、ベスト8を目前にして、団体戦で完勝した林田に、しぶとく粘られて自滅、相手を甘く見た訳ではないだろうが、両膝のサポーターが妙に痛々しかった。

戦かわずして優勝戦線から姿を消した浅沼も膝の故障、優勝候補3人が揃いも揃って膝に泣く羽目になったのは、何とも皮肉な現象だった。

準々決勝で西山を降した坂本は、ますます勢いに乗って快調そのもの、守勢から攻勢への切り換えの速さは抜群、「リンパ腺が痛くて」細谷戦で第1ゲームを落したものの、ネット前へのフットワークもスピーディに難関を突破、心身ともに充実した試合ぶりだった。

決勝は、ダブルスの優勝に的を絞ったかのような酒井のプレーに助けられ、坂本の一方的な勝利となったが、試合としての盛り上がりに欠けたのは、大いに惜しまれる。

せっかく決勝進出を果たしながら、持てる力を発揮せずに終わるとは、激しい体力の消耗からパートナーへの気遣いでダブルスに賭ける友情も理解できるが、第三者から見れば勿体ないということもできる。

今大会で特に目立ったのは、最上級生の頑張り。

優勝した坂本を筆頭に、酒井、細谷、林田、吉岡、富田の6人がベスト8入りを果たして気を吐き、特筆ものの健闘ぶりだった。

最後を飾れた

優勝した坂本宏志選手の話：…調子が良かった。リーグ戦全勝の北橋（日体大）戦を第一の目標にしていた。それに勝ったので波に乗れた。西山戦ではフアイナルになると負けると思い必死だった。4年の意地です。バックの奥からのストレート・スマッシュが良く決まった。足が良く出たので、ネット前からの押っつけが効いたようです。学生最後に花を咲かすことができて、とても嬉しい。（坂本選手は、石川県七尾農出身、インターハイ3位、昨年の関東選手権3位が主な戦績。身長1メートル69、体重58kg）

▼女子シングルス4回戦

石田ひとみ（日女体大） 2—0 田村 圭香（日女体大）
川島 直子（東女体大） 2—1 土田理恵子（東女体大）
平 久美子（四条畷短） 2—0 柴田 真弓（東女体大）
枝 美代子（日体大） 2—0 豊田由美子（日女体大）
高岸 陽子（東女体大） 2—0 中沢 淳（日体大）
藤井 良子（体大） 2—0 浜田 由理（東女体大）

THE 30TH ALL JAPAN INTER COLLEGE

男子単 初優勝、坂本〝快進撃〟

渡辺　喜美（日女体大）　2—1　山本美津子（筑波大）
月岡　広美（新潟青陵）　2—0　河村　茂美（四条畷短）

▼同準々決勝

石田2（11—2 11—1）0川島
平2（11—6 12—11）0枝
高岸2（11—4 3—11 11—6）1藤井
月岡2（11—6 10—12 11—7）1渡辺

▼同準決勝

石田2（11—6 11—8）0平
高岸2（11—3 11—6）0月岡

▼同3位決定戦

月岡2（キケン）0平

▼同決勝

石田2（11—2 11—2）0高岸

（石田は2連勝2度目）

昨年優勝の粘りの石田、柔軟なプレーの月岡、スピードが身上の高岸、美しいフォームの平、それぞれ実力伯仲の持ち味の違った4人がセミファイナルに勝ち残り、〝女の戦い〟は佳境を迎えた。

石田は昨年優勝の貫禄を見せて楽々とベスト4入りを果たしたが、平は、好パートナー徳永を故障で欠き、シングルス一本に闘志を燃やす枝の力強いプレーに手を焼き苦戦、競り合いが続いた。

しかし、枝はせっかく好ゲームに持ち込みながら、第1ゲーム最後の1ポイントに泣いたのが大きく影響、第2ゲームになると落胆の色が隠せず、各ショットに勢いを失ってしまった。

体力的に優位に立っていただけに、第2ゲームに対するファイトをもう少し掻立ててもらいたいところ。

藤井は、得意の粘りで高岸の焦りを誘い出し善戦、ファイナルゲームに持ち込んだが、高岸のスピードにまともに対抗して、第2ゲームの好ペースを見失なってしまった。

東日本学生の覇者・山本を激戦の末降した渡辺は、派手さこそないものの堅実なプレーに終始、〝新潟の星〟月岡に対しても、第2ゲーム大差の劣勢をジリジリと逆転、大いにムードを盛り上げた。

しかしこの日の山本との長時間の試合が響いたのか、第3ゲームまでこのムードを維持することはできなかったが、その充実ぶりは目を見張るものがあった。

準決勝、石田はシングルスでの最近の成長が著しい平に対し、実に丁寧な辛棒強ラリーで応え連覇への意欲満々。

平は、関西では恐らく経験のないこの競り合いに、随所に切れ味の鋭いショットを放ったが、ついに息切れの形となった。

一方の準決勝、高岸対月岡は決勝進出を意識したのか、月岡は何時もの柔軟さを欠いて固さがありあり、高岸のスピードにねじ伏せられてしまった。

久しぶりの新潟青陵の産んだ大器、恩師佐藤秀夫氏が「試合の結果より、特病の膝の痛みが出はしないかとヒヤヒヤした。」と心配そうな面持ちで見守る中、単身シングルスだけに出場という不利を克服してのベスト4は立派。

これから、強敵の中での経験を積めば、将来が大いに嘱望される。

柔と剛の対戦となった石田と高岸の決勝は、大接戦が予想されたが高岸が優勝を余りに意識しすぎたとしかいいようのない凡ミスを繰り返して、あっけない石田の勝利となった。

高岸としては信じられないようなクリアーミス、カットミス、スマッシュミスと、繰り出すストロークすべてがコントロール・ミス。気持だけが先走って、コーナーを狙いすぎてしまった。

スピードでは、石田を一歩リードしているはず、大試合での緊張が想像以上の気負いとなったようだ。

放心してうなだれる高岸とは対照的に、ウィナーズ・サインもそこそこに僚友と抱擁し、大粒の涙で頬を濡らす石田の姿が印象的だった。

石田ひとみ選手の話……去年よりも嬉しい。負けても悔いの残らないように心掛けました。ネット前からのハネ上げと、ハイクリアーが良かったと思います。実家の母にはすぐに電話をしました。

全国の指導者へ
何をしたらよいか？

新潟青陵高校監督・佐藤秀夫

敗因に「精神力」を掲げる監督は、基本的な「心の指導」に欠ける場合が多い。体力・技術論は抜きにして、この面について触れてみよう。

◆指導者について

ある年、自分の預かるチーム、または選手が全国制覇を成し遂げたとする。その瞬間に私は「このチーム・選手を打破るためには何をしたらよいか？」を考え、方策を模索する。敗れた相手がわがチーム・選手を破るためにこのことを深く考えるのに、勝った自分がそれをしなかったなら、この時点で次の敗北が明らかに待ち受けているからである。

指導者としては、常に新鮮な目を持ち、ある一定のレベルで凝り固まった考えを持ち続けることだけは絶対に避けなければならない。

◆選手の発揮する力について

大切な試合で選手が不安感を持ち、緊張するのは当然のことである。そういう条件下で出せる力が、その選手の本来の力である——と考えなければならない。そのために、指導者は練習場では、全力を挙げて試合場と同じ雰囲気を作ることである。

私はよく選手を精神的に過緊張の状態に追い込む。当然、選手のプレーは委縮する。それが試合場でのプレーなのである。そうした状態でプレーの中身、精神的に最低の条件下で発揮する力が向上しない限り、試合場での活躍は望めない。

過緊張下での、妥協のない、厳しい練習には、選手は本能的に拒否反応を示すが、それをしつこくやり抜くことによって、選手に「練習より試合の方が楽しい。リラックスできる」と自覚させるのに成功すれば、試合場では必ず力を十分に発揮するものである。

試合場で選手が持てる力を十分に発揮するか否かは、試合に臨んで指導者が示すテクニックもさることながら、練習場での指導者の姿勢が大きく左右するものと考える。

◆選手との心のつながり

このつながりの強さは各種トレーニングの効果と似ている。なにより選手と行動を共にする回数が多いほど、選手の精神状態はよく知り得る。そして、重要なことは、選手に与える精神的なストレスの程度を漸進的に強め、選手の精神を強くすることである。

選手個人の人格をも否定するような、かなりの強度のストレスを与えた場合、選手と指導者との間には当然、心の闘いが起きる。そのときに、指導者は自己の責任において選手の心に負けてはならないし、自分自身の心にも負けてはならない。

もし、そのようなことがあると、選手側には逃避等の現象が、指導者には暴力による結論の中断、または簡単なあきらめなどが現れる。要は、確固たる信念を持って選手にストレスを与え、必ず解決するまで責任を持つことである。この繰り返しによって、選手の精神力が強くなると同時に、選手は指導者を深く信頼するようになると考える。

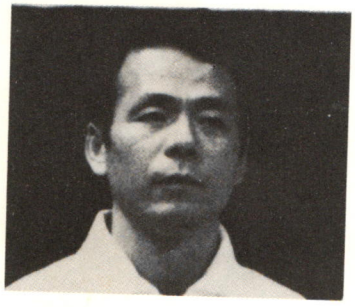
◆中・高校生の監督について

現在の中・高校生の置かれている種々の悪環境、上に立つ人人の理解不足等々、われわれにとって優秀な選手の育成には大きな困難を伴っている。一方、他のかなりの都道府県では、若年層からの選手育成の立派なシステムができており、それらのチームを破るのは至難の業であることも事実である。

現状では、全国のトップレベルに到達し、それを維持しようとすれば、選手もさることながら、監督は大きな辛苦を一身に背負わなければならない。しかし、これ以上の低落を防ぐためにも、監督は不屈の心と不断の研究心と実践力を持ち続け、中・高校生の能力は必ず伸びるものと確信し、勝負の行方は監督の心、能力にかかっていると銘記するくらいの覚悟が必要と考える。

新潟青陵高校教諭
佐藤　秀夫
（同校バドミントン部監督として、昨年度の新潟日報スポーツ賞特別賞を受賞）

——11月27日付、新潟日報



筆者

YONEX®

ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）



バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Bの部(つづき)

bird バード。もともと『鳥』のことだが、主として米国で使われるシャトルコックの別称。

例 the shuttlecock – or shuttle or "bird" as it is more frequently called. (K. Crossley)

シャトルの飛び交うさまが、小鳥が飛ぶように見えることから名付けられたといわれている。

block ブロック。バレーボールでよく知られている言葉。一般には『ふさぐ』『じゃまする』ことで、バドミントンなどの場合は、飛来したシャトルを、ネットを越えたばかりの早い時点で、不意に横あいから飛び出して、とらえることを指す。飛球の進路を途中でさえぎる感じがあるので、このようにいう。類語にインターセプト（intercept）があり、これはダブルスで、本来はパートナーが処理すべき球を、横取りするような時にも使われることが多い。

bronze medal ブロンズ・メダル。銅メダルのこと。オリンピック、世界選手権をはじめ各種の大きい大会で第3位者に与えられる。ブロンズはいわゆる青銅。銅そのものに相当する英語は copper だが、メダルに使われる場合の言葉はすべてブロンズなので注意が必要。☞ medal, gold medal, silver medal

butt バット。一般には、武器や道具の柄のような部分の太い方の端のことで、ほかに、切り株、タバコの吸いさし、おしりなどの意味もある。バドミントン（またはテニス）では、ラケットの柄の端をいう。柄の端の〝底〟に相当する部分はとくに butt end（バット・エンド）という。

bye バイ。グッドバイ（さようなら）のバイと同じで、前置詞の by（そばに、添って）と同じ語源だが、スポーツ用語としては『勝ち抜き戦方式の試合組み合わせで、不戦勝（を得ること）』の意。

例 After drawing a bye in the 1st round, she……（1回戦で不戦勝を引き当てたあと、彼女は……）

Cの部

call コール。審判が試合の進行、得点、規則違反などに関し、選手(ばかりでなく、観衆等にも)はっきり聞こえるように、口頭で行う〝宣告〟の総称。中学生の段階で習う英語の call（呼ぶ）と同じ言葉である。コールは、バドミントンでは主審（umpire）の役目、権限なので、主審のことを call umpire（コール・アンパイア）と呼ぶこともある。これはテニスにおいても同様である。ただし、線審（ラインズマン、複数はもちろん、ラインズメン。linesman, linesmen。余談だが、女性がつとめれば lineswoman, lineswomen という）も、自己の受け持ちラインに関し、シャトルが『アウト』と判断した時は、そのむねコールできる。

例 Umpire, who could not catch the linesman's call in an uproar, asked, "Did you make a call right at the moment?"（主審は、怒号と騒音の中で、線審のコールが聞こえなかったので、『たったいま、あなたはコールをしましたか』とたずねた。）

コールは、動詞として使って〝宣告をする〟意味にもなる。

例 Game was called.(ゲームが宣せられた。すなわち、試合終了。日本語でいうところのゲームセットに当たる。)

野球のコールド・ゲームは、このコールを過去分詞形容詞として使ったもので〝宣告された試合〟すなわち規定のイニングが完了しないのに、ほかの理由で、試合が成立、終了したことを宣せられた試合、という意味である。

なお、審判のコールの個々の具体例については、日本バドミントン協会に、くわしいブックレットがあるから、熱意のある人は、買い求めて勉強されるとよい。☞ umpire, service judge, linesman の各項

captain キャプテン。主将と訳されている。これは多くの場合、チームの選手の中で、最高学年者、最高年齢者、最も経験の豊かなもの、または統率力にすぐれているもの、がこの役目につくからである。しかし、テニスのデ杯、クリケット(野球の原型となった英国系のスポーツ）やボウリングなどでは、キャプテンは実質的にはコーチ、もしくは監督のことである。このように、プレーをしないキャプテンをノン・プレイング・キャプテン（non-playing captain）という。

キャプテンは選手のまとめ役、意志の代表者、スポークスマンで、ルールの適用、解釈について疑義が生じた時や、判定に疑問がある時、監督指導者、当該選手らとともに、チームを代表して異議を申し立てたり、質問したりできる。

キャプテンは、また動詞として用い『キャプテンをつとめた』意にもなる。

例 He captained more than ten years for his mother country.(母国のため10年余もキャプテンをつとめた。)

なお、副将は vice captain（バイス・キャプテン） ☞ manager

〈Cの部つづく〉

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円

FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト
フルカーボンシャフト

色……イエロー・オレンジ・グリーン

重量表示　U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®



ラケットの軽さも遂にここまで来た。
ラケットの重さの壁は 100g、それを破ることはとうていムリだろうと考えられていました。その不可能にヨネックスはあえて挑戦。そして、世界で始めて、見事100g 以下の超軽量ラケットを実現しました。まさに世界記録です。

これはフルカーボンシャフトラケット。
ウエイトを下げると、ラケットがひ弱になり、パワーが落ちるといわれていた常識を、ヨネックスがくつがえしました。フレームに特殊アルミ合金、シャフトにフルカーボンを採用することにより、強度もパワーもグレードアップ。

バドミントンプレイがまた進歩する。
ラケットの軽さもここまでくると、ラケットが腕そのものになってきて、プレイそのものを、変えてしまいます。よりシャープに、よりパワフルに、攻撃型のプレイへと。いま、このヒーローの登場で、世界は沸きに沸いています。





初めて使ったその日から、
GRABON707

威力がわかる、魅力がわかる。
発売に先だち——

モニター50名さま募集

世界で唯一のジョイントレスラケット

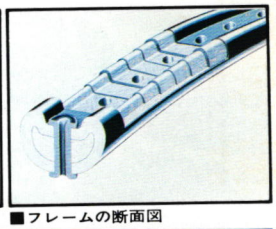
フレームとシャフトはつなぎめなし 日本に新登場。

フレームとシャフトを一体成型した画期的なラケットです。素材はオールカーボングラファイト。ジョイントレスラケットは世界で唯一つ、Pro Kennex だけ。注目のうちに、日本に新登場しました。

ここが自信のポイント

さあ「GRABON707」を徹底的にチェックしてください。

- ■強く、スピードのあるショットが可能。時速280km以上のスマッシュが打てる。（当社試打記録）
- ■弾性があり、打球は初速がはやく、空気抵抗により急速に落下。アウトになる打球が少ない。
- ■打球の感触がストレートに手に伝わる。腕の延長のようなフィーリングでショットでき、コントロールしやすい。
- ■オールカーボン素材の内側を特殊プラスチックで形成。軽く、強く、しかも、振動を100%吸収するので腕やヒジを守る。
- ■従来のラケットがもっていたジョイント部分のもろさやシャフトのねじれを解消した。



■フレームとシャフトの内部構造　■フレームの断面図

モニター応募要項

- ■本紙巻末のとじ込みの申込用ハガキでご応募ください。
- ■〆切日：昭和55年2月29日（当日消印有効）
- ■応募者多数の場合は抽選で50名さまを選ばせていただきます。
- ■発表は商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。
- ●モニターの方にはGRABON707をご使用のうえご感想を当社へお寄せいただきます。

PRO KENNEX

GOSEN



WW-06
トレーナー〈サクセス〉
¥9,800

WD-13
ドレス〈ロンダ〉
¥8,200

WW-04
ウォームアップジャケット
〈ウイナー〉
¥12,600

WD-05
ドレス〈ロンドニーナ〉
¥9,300





WT-02
シャツ〈ホバート〉
¥7,200

WP-04
ショートパンツ
¥4,400



WT-01
シャツ〈ロレーヌ〉
¥5,300

WS-01
スコート〈ロレーヌ〉
¥5,700



WW-08
トレーナー〈グレイト〉
¥6,000

WP-26
ウォームアップパンツ
¥8,600

足音は、もう春。



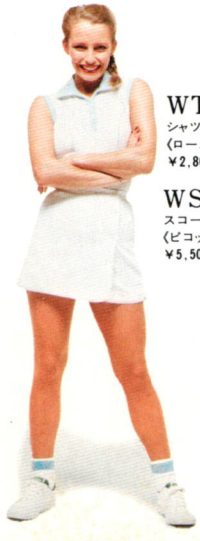
WT-03
シャツ
〈セレーナ〉
¥4,800

WP-03
ホットパンツ
¥4,200



WT-05
シャツ
〈ローズウェル〉
¥2,800

WS-03
スコート
〈ピコット〉
¥5,500



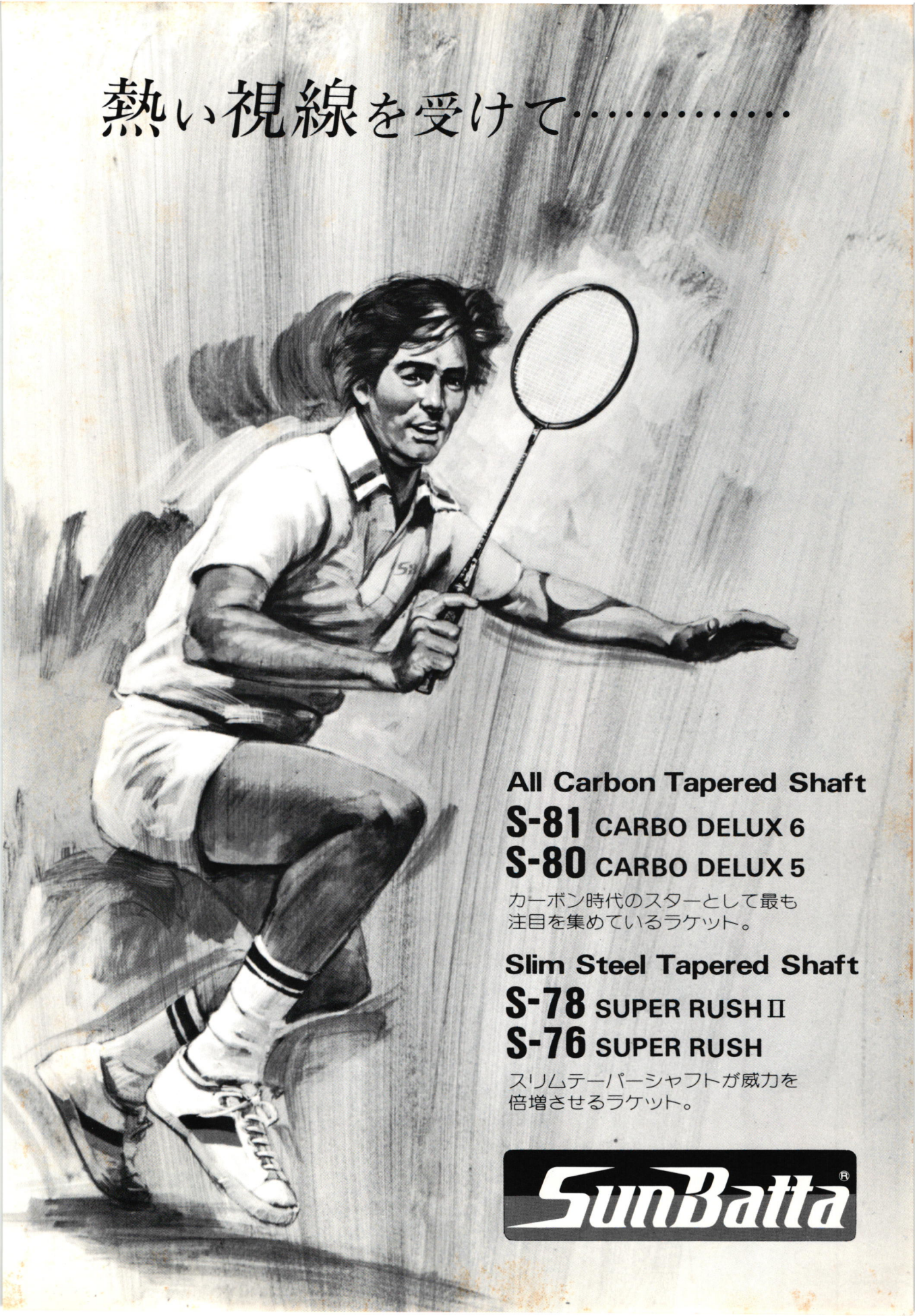
Winter
SPORTS WEAR DESIGNED BY GOSEN

おしゃれな人は、季節感をキャッチするアンテナも鋭い！ハートが若い証拠です。このような人のためのウインテックスウエア。やっぱり動いているときが美しく決まります。頑固なまでに機能性を生かしながら、このファッション感覚。中でも特にこの季節に似合うのが水玉。フレッシュ！なのです。カラーもショアピンク、サンダンスイエロー、シャーベットの3色。コートではいちだんと映えますよ。他にもダイナミックカラーのウエアも豊富に揃っています。

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎（06）942-5816（代）
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎（03）862-6576（代）
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎（092）712-5247（代）
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎（0762）47-0200（代）

熱い視線を受けて……



All Carbon Tapered Shaft

S-81 CARBO DELUX 6

S-80 CARBO DELUX 5

カーボン時代のスターとして最も
注目を集めているラケット。

Slim Steel Tapered Shaft

S-78 SUPER RUSH Ⅱ

S-76 SUPER RUSH

スリムテーパーシャフトが威力を
倍増させるラケット。

SunBatta®

FROM EUROPE

ヨーロッパ情報

オープン化の報酬

この大会に参加した外国選手は、誰も総額2万7000ポンドの賞金を手にすることができないと知って驚いている。

イングランドのレイ・スティーブンス、デレク・タルボット、ノラ・ペリー、ギリアン・ギルクスは、もし勝てば賞金を手にすることができるが、認可を得ていない外国選手たちの賞金は各国の所属団体に直行となる。「やり過ぎということかも知れないが、オープン・バドミントンの推進に同意をみた以上は、似非アマチュアリズムを大目に見るわけにはいかない」とEBA役員が言っていた。

ギルクス激しい売込み

ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールでは、第1回のオープン・トーナメント、フレンズ・マスターズ大会が開催され、バドミントンの新しい歴史が作られた。この有名な中期ヴィクトリア風の荘大な建物でバドミントン試合が行われたのもこれが初めてのことである。

大会開幕初のショットを放ったのは、イングランドNo.3のジェーン・ウェブスター。この二年間全英選手権準優勝の元気いっぱいの日本の近藤小織を11—4、11—8と降した。三月の準決勝で近藤に敗れたウェブスターには報復の機会だった。どの角度からもよく打ち、攻撃に終始した。第1ゲームは圧勝、第2ゲームは近藤がよくネットに走って8—5とリードしたが、ウェブスターはクロスコートのドロップ・ショットがよく決まり、コントロールを取り戻した。

イングランドNo.1のギリアン・ギルクスはカナダのウェンディ・カーターと対戦。セーターの宣伝用のモチーフが大き過ぎると審判から譴責を受けた。ギルクスは、ホールの暑さにもかまわずそれを着用のままプレーを行なった。集中力を失なったかに見えたが、すでに回復し、その長いリーチでまき返した。

第2ゲームは攻撃一本槍だった。高く十分な距離のサーブで相手をつけ入らせず、11—8、11—4で勝った。

優勝はしたけれど

皮肉なことに、第一回の世界的なオープン・トーナメントであるフレンズ・プロビデント・マスターズでは、主な賞金はシングルスの優勝者の誰の手にも渡らなかった。ブラカシュ（インド）もリーン・ロプケ（デンマーク）もまだアマチュアであり、したがって二人の獲得賞金3000ポンドはその所属団体が受け取った。

また、土曜日のロイヤル・アルバート・ホールに満員の観衆は、ノラ・ペリー＝ジェーン・ウェブスター組の女子ダブルスでのみごとな優勝を見ることができた。二人ともすでに「認可」されたプレーヤーであり、それぞれ750ポンドを手にした。ウェブスターはシングルスでもグループで2位となって650ポンド、ペリーもグループで4位ながら250ポンドを獲得している。

ギリアン・ギルクスは女子シングルスで準優勝、1500ポンドを獲得、男子ダブルスでは、マイク・トレジェットを組んで準優勝のレイ・スティーブンスは895ポンドを手に入れた。彼らにとってこれまでにない高額の資金であり、当然今後ももっと大きなオープン試合の催されるのを望んでいる。

カナダ、デンマーク、イングランド、オランダ、スウェーデンの代表たちは「オープン」という言葉についてのかなり不明瞭な尺度に関して困難な諸問題を整理しようとしている。解釈も各国各様である。

IBF副会長のクレイグ・リーディは、メンバーの80パーセントが考慮しているオリンピックとの兼ね合い、それと東欧諸国やカナダなどの完全な意味でのオープン化への移行を望む国との調整を図っているところだと話していた。現在のところ少数のイギリスのトップ・プレーヤーだけが思い切って行動をとり、その率直さは賞讃されねばなるまい。

（いずれも〝ガーディアン〟紙から、山本洋彦氏提供）

編集室から

⊙「バドミントン界」の年間予約購読の皆様には、期限切れの一カ月前にお知らせと専用振込用紙をお送りしています。そして、期限の切れる月にも、お知らせを同封しております。発行後一カ月ほどで品切れになる場合もありますので、お早目に継続の手続きをお願いいたします。

また住所変更の場合は、ハガキに新旧の両方の住所を明記して編集部あてお送りください。

⊙昨年暮れにお申込みをいただきましたカレンダーは、年賀状の時期と重なり、大変ご迷惑をおかけしましたが、ご了承のほどお願いいたします。

⊙なお、お申込みになりました出版物の汚損、乱丁・落丁、未着などのお問合せは、必ずハガキでお寄せください。

〈宛先〉
〒150東京都渋谷区神南一—一—一
岸記念体育会館内
バドミントン界編集部庶務課

女子単

新女王"米倉"誕生

▼男子シングルス3回戦

銭谷　欽治（カワサキ）	2—0	宮崎　克己（サントリー）
栂野尾昌一（ヨネックス）	2—1	米　正隆（高岡市役所）
長谷川博幸（ヨネックス）	2—0	舛田　吉光（石川教員）
飯野　佳孝（ヨネックス）	2—0	日下　昇（百十四銀行）
西山　博司（中大）	2—1	小島　一平（RS元町）
辻　敏弘（ヨネックス）	2—1	今泉　勉（高岡市役所）
長谷川　進（石川教員）	2—0	中井　基夫（カワサキ）
土田　証雄（電電東京）	2—0	坂本　宏志（日大）

▼同準々決勝

銭谷	2	15—5	17—14	0 栂野尾
長谷川	2	15—10	15—7	0 飯野
辻	2	15—5	18—14	1 西山
土田	2	15—8	15—13	0 長谷川

▼同準決勝

銭谷	2	17—14	15—11	0 長谷川
土田	2	15—10	15—10	0 辻

▼同決勝

銭谷	2	15—8	15—12	0 土田

（銭谷は4連勝5度目）



銭谷欽治選手（カワサキ）

銭谷が、4連覇5度目の栄冠を堂々と手にしたが、社会人1年生・長谷川の著しい成長があって、〝銭谷・土田・長谷川〟の三羽烏時代へ突入したといえよ。

準決勝、銭谷対長谷川は、ようやく社会人のスピードに馴れてきた長谷川が、0—5の劣勢をネット前への速い出足で挽回5オールと追いつき、たちまち競り合いの様相を呈した。

中盤、銭谷もよく打って出るが、長谷川の華麗なラケットさばきもそれを許さず、11オールまで一進一退の大接戦。

しかし、スタミナに自信を持つ銭谷は、無理をせずに慎重にラリーを続け、長谷川に打たしてから逆転する持久戦に持ち込んだ。

長谷川も、何時になく積極的な攻撃を繰り返したが、銭谷の執拗な粘りに根負け。

第2ゲーム、長谷川はなおも攻撃の手を緩めず、一時は9—4と大きくリードを奪った。

が、ここからが銭谷の真骨頂。徐々に差を詰め、長谷川の焦りを誘い一気に逆転、14—11とマッチポイントを奪ってしまった。

長谷川も、最後の力をふり絞って打ち返す闘志を見せ、セッティングに持ち込む大健闘、意欲が十分にうかがえた。

セッティングでは、緊張の連続で疲れたのか、銭谷の堅城を打ち破ることはできなかったが、その天性のテクニックが卓越していることを再認識させてくれた。

銭谷は、難敵・長谷川に打ち勝った後の土田戦でも、第一人者の貫禄を見せた。

決勝の第1ゲーム、銭谷、土田とも安定性を欠く調子で、3—5から銭谷が一気7—5とすれば、土田もネットプレーに冴えを見せ10—7と逆転、波乱含みの展開となった。

しかし、土田に対し絶対の自信を持つ銭谷は、よくシャトルを四隅に配球、10—12から4ポイント速取、2度目のゲームポイントをあっさりモノにして落ち着いたプレー。

第2ゲームも、激しい攻防が8オールまで続いたが、土田もここで悪い癖といわれる〝気を抜く〟ような凡ミスを重ねて、6ポイントを連取されて万事休す。

銭谷は、持ち前の体力を基盤に、精神的に落ち着いた充実ぶり、要所要所に素晴らしい集中力を発揮、ピンチらしいピンチを招かなかった。

注目された高校チャンピオンの権藤は、粘りの宮崎と互角に打ち合う試合度胸の良さを披露して将来に希望を抱かせ、大学チャンピオンの坂本は、土田の強烈なスマッシュを捨いまくって第1ゲームセッティングの大健闘、インカレ優勝がフロック

'79 ALL JAPAN 11／29～12／2 TOKYO

男子単 錢谷、堂々5度目、

でなかったことを見事に実証した。

新旧交代を思わせたのが、小島対西山の一戦。

練習量を誇る学生・西山に対し、小島は「仕事が忙がしくて、1週間前から打ち始めたが…」という、それでもファイナルゲームあと一歩まで詰め寄り、腐っても鯛の感があったのはさすが。

若手期待の一番手西山も、小島を破ってのベスト8は立派、そのスマッシュ力は辻戦でも遜色なく、不覚のインカレの雪辱を果たしてくれた。

▼女子シングルス3回戦

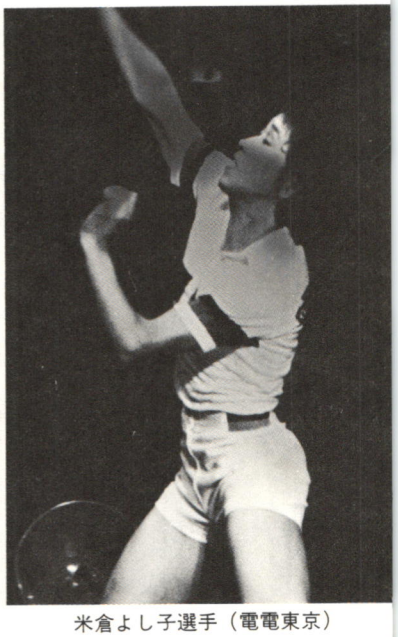
徳田　敦小（サントリー）2—0 渡辺多喜子（カワサキ）
大塚ソノエ（ヨネックス）2—0 東海林文子（サントリー）
高田　幹子（サントリー）2—0 三田知佳子（電電東京）
湯木　博恵（カワサキ）2—0 秋本　幸子（サントリー）
米倉よし子（電電東京）2—0 谷　美津代（サントリー）
関根　和子（ヨネックス）2—0 千葉　陽子（カワサキ）
石田ひとみ（日女体大）2—0 宮野　明子（石川教員）
近藤　小織（カワサキ）2—0 松田　敦子（青森）

▼同準々決勝

徳田	2	11—1	11—0	0 大塚
湯木	2	11—7	11—4	0 高田
米倉	2	11—2	11—6	0 関根
近藤	2	11—1	11—2	0 石田

▼同準決勝

湯木	2	11—4	11—1	0 徳田
米倉	2	11—8	12—9	0 近藤



米倉よし子選手（電電東京）

▼同決勝

米倉	2	5—11	11—3	1 湯木

（米倉は初優勝）

〝4強〟徳田、湯木、米倉、近藤が、今年もまったく他を寄せつけない強さを見せつけ、順調にベスト4へ勝ち進んだ。

その中で、連覇を狙う徳田に元気なく、湯木の丁寧な揺さぶりにあっさりと兜を脱ぐ予想外の結果。

近藤は、ひと頃のどん底のスランプから見れば、やや立ち直りのきざしがうかがえるが、やはり凡ミスが続くあたり、本物とはいえない。

米倉との準決勝、第1ゲーム8オール、第2ゲーム9オールの競り合いに、この〝病気〟が出て、せっかくの健闘に水を差すことになった。

相手の自滅とも思える試合に助けられた湯木、米倉は、それぞれ湯木は配球の妙に、米倉は身上のスピードに好調ぶりを発揮、予断を許さぬ決勝の顔合わせとなった。

ショットに、米倉はクリアーにコントロールを乱して苦しみ4オール。

中盤から湯木はバックハンドに冴えを見せ主導権を握り、米倉は逆にカットミスが目立って、ペースは湯木のものかと思われた。

しかし、第2ゲームになると、とたんに湯木は集中力を乱し凡ミスを続出、米倉はスマッシュを主体にしたスピード感を取り戻し、8—0と逆転優勝へ一気にたたみ込む勢い。

波に乗った米倉は、ファイナルゲームも果敢に攻撃に次ぐ攻撃、スマッシュを随所に決めて、湯木に立ち直りの余裕を与えず若さを前面に出して押し切ってしまった。

湯木、近藤、徳田に続いて現役4番目の王座は、まさに〝4強〟を自ら証明することとなった。

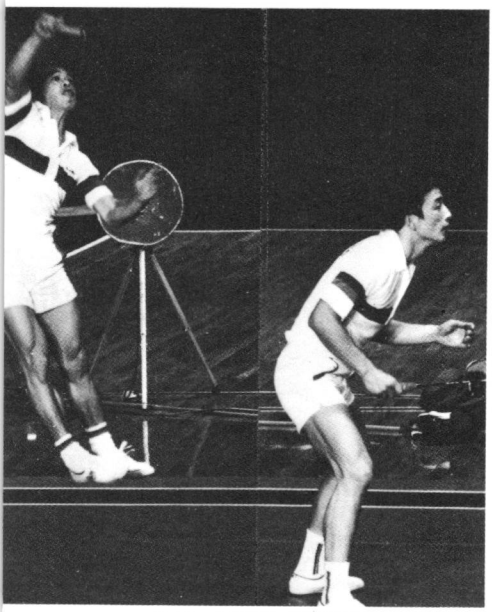
初の中学生の出場で話題となった森山（熊木クラブ）は、高校ベスト8の磯野（比叡山高）を降して実力のあるところを見せ「何をやっていたのか覚えていない」とはいうものの大いに楽しみな存在となった。

湯木以来の偉材といわれ、期待されていた北田（四条畷）は、大会前の練習で捻挫、不参加だったのは残念だった。

女子複

徳田組、快調な出航

タート飾る4度目



池田・尾崎組（電電東京）

▼男子ダブルス3回戦

飯野・土田（ヨネックス） 2―1 今井・栗原（群馬教員）
今泉・牧野（高岡市役所） 2―0 神戸・高岡（福井教員）
辻・長谷川（ヨネックス） 2―0 山本・坂本（トヨタ自）
木村・遠藤（電電北海道） 2―0 富田・酒井（法大）
銭谷・中井（カワサキ） 2―0 長谷川・舛田（石川教員）
池田・尾崎（電電東京） 2―0 鈴木・高橋（新潟）
栂野尾・後藤（ヨネックス） 2―0 今井・斉藤（カワサキ）
田所・大場（電電東京・ヨネックス） 2―0 高橋・飯塚（吉田商）

▼同準々決勝

飯野・土田 2（15―0、15―13）0 今泉・牧野

辻・長谷川 2（15―8、15―5）0 木村・遠藤
池田・尾崎 2（15―4、15―12）0 銭谷・中井
田所・大場 2（15―4、15―6）0 栂野尾・後藤

▼同準決勝

飯野・土田 2（15―12、13―18、15―11）1 辻・長谷川
池田・尾崎 2（15―8、15―7）0 田所・大場

▼同決勝

池田・尾崎 2（17―14、15―11）0 飯野・土田

（池田・尾崎組は初優勝）

「間違いなく優勝」といわれ、不動の本命だった連勝街道ばく進中の飯野・土田組が敗れる波乱が起きた。

主役を演じたのは、富山商出身同士でコンビを組み、社会人大会、実業団を制し、常に安定した実力を発揮することでは定評のあるベテラン池田・尾崎組。

池田のネット前でのストップ、レシーブ力に加え、今大会は人が変ったように尾崎の気力が充実、スマッシュを打ち続けたファイトは賞讃に値するものだった。

ダブルスの名手・池田にリードされ、その持ち味を充分に発揮できるようになったのは努力のたまものか、飯野・土田組の独壇場だった男子ダブルスに活気が生まれてきそうだ。

3連覇を逃がした飯野・土田組は、3回戦で早くも今井・栗原組に大苦戦、ファイナルゲーム9オールでは「もう駄目かと思った」ほどのヒヤ汗モノ。

今井・栗原組は、2人で〝羽根打ちサービス〟なるスピンの利いたバックハンド・サービスを駆使「もう今年で引退だ」は返上しなければならないだろう。

大型コンビとして今後を期待される辻・長谷川組は、辻の剛、長谷川の柔のコンビネーションが今一歩洗練されれば、来年は優勝を狙うに充分、栄冠は射程距離である。

▼女子ダブルス2回戦

谷・秋本（サントリー） 2―0 岩見・磯野（比叡山高）
栂野尾・月岡（ヨネックス・新潟青陵） 不戦勝 三田・中田（電電東京・藤園女高）
徳田・米倉（サントリー・電電東京） 2―0 千葉・沢内（カワサキ）
河村・平（四条畷短） 2―0 日山・日向野（旭光学）
高田・近藤（サントリー・カワサキ） 2―0 平井・山田（琴平電鉄）
東海林・原口（サントリー） 不戦勝 関根・大塚（ヨネックス） 2―0 森山・高峯（熊本C）

▼同準々決勝

谷・秋本 2（15―7、15―8）0 栂野尾・月岡
徳田・米倉 2（15―2、15―0）0 三田・中田
高田・近藤 2（15―9、15―10）0 河村・平
関根・大塚 2（15―4、15―11）0 東海林・原口

▼同準決勝

徳田・米倉 2（15―2、15―6）0 谷・秋本

'79 ALL JAPAN 11／29～12／2 TOKYO

男子複 池田組、念願成就

混合複 栂野尾夫妻、再ス

▼同決勝

高田
近藤 2 (15—9, 15—12) 0 関根
大塚

徳田
米倉 2 (15—10, 3—15, 15—2) 1 高田
近藤

（徳田・米倉組は初優勝）

国内では初登場となる徳田・米倉組、高田・近藤組が、どんなコンビネーションを見せるか、戦前からこの2つのペアの試合ぶりに興味が持たれた。

その期待通り、徳田・米倉組はまったく相手を問題にしない横綱相撲、決勝までの4試合で相手に与えた最高失点が、谷・秋本組に対する6点という完璧のできだった。

高田・近藤組も、大学チャンピオン・ペアの河村・平組のレシーブに手を焼いたが、パワー溢れる攻撃で攻め抜き、1ゲームも落とすことなく決勝へ勝ち進んだ。

決勝は、両ペアとも新コンビのせいか、好不調の波の激しい女子ダブルスにしては珍しい大味なゲームとなった。

まず徳田・米倉組が4—0とリードすれば、すぐに近藤・高田組が5—4と逆転、ここでしばらく競り合いがあったが、徳田組が5—8から連続7ポイントを奪うといった具合い。

高田組も、10—12とくい下がったが、ここまで。

しかし、第1ゲームを奪った徳田組は、気が抜けたのか第2ゲームに入ると凡ミスの連続、0—11となって興味はファイナルゲームに持ち込まれた。

高田の前衛と、近藤の後衛がようやく噛み合って、エンジンフル回転かと思われたが、第3ゲームになると、徳田組の速いリターンに遅れ気味、徳田組はたった3回のサービス権で初優勝を獲得した。



徳田・米倉組（サントリー・電電東京）

躍進熊本県の中学生ペア、森山・高峯組は、高校生を降して単複ともに初戦を勝ち抜いたのは立派、このまま大きく育ってもらいたいものだ。

▼混合ダブルス準々決勝

中井・千葉（カワサキ） 2—0 平田・島田（鳥羽高教・愛知淑徳大）
栂野尾夫妻（ヨネックス） 2—0 斉藤・渡辺（カワサキ）
関・石田（早大教・ア） 2—1 堺・湯木（カワサキ）
大場・飯野（ヨネックス） 2—0 村元・松田（青森）

▼同準決勝

栂野尾
夫妻 2 (15—7, 15—12) 0 中井井
千葉

大場
飯野 2 (18—15, 15—11) 0 関
石田

▼同決勝

栂野尾
夫妻 2 (18—15, 15—10) 0 大場
飯野

（栂野尾夫妻は3年ぶり4度目）



栂野尾夫妻（ヨネックス）

しばらく出産のため現役から遠ざかっていた〝エツコさん〟が、見事に復活した。

あの華麗なバックハンド、前衛でのラケットさばきが、試合を重ねるたびに甦ってファンを魅了、夫君の援護射撃に助けられて健在ぶりを示した。

準優勝に終ったが、大場・飯野組も、大場の角度ある攻撃力と飯野の渋太さで、ダブルス巧者らしさを見せた。

昨年優勝の中井・千葉組は、攻守ともに昨年の元気がなくベスト4止まり、若さが失なわれていたのは気になるところ。

読者と編集者

公認審判員の資格について

日本バドミントン協会登録の件でおたずねします。私は、高校・大学と登録をしてきましたが、一般になった現在は登録しておりません。近くで登録できる場所を教えてください。

また、3級審判員の資格を昭和50年に宮城県で取得しましたが、現在では無効でしょうか。さらに2級審判員の資格も取得したいのですが、もう一度3級から申請しないといけないのでしょうか。

（山形県最上郡・加々美信彦）

◇まず日本協会登録の件からご返事いたします。協会登録はすべて各都道府県協会を通じて行なってください。山形県協会の連絡先はつぎのとおりです。

〒990 山形市小白川町1－4－12
山形大学教養部内
体育研究室気付

つぎに、審判員資格の件ですが、昭和50年に公認の手続きを完了していれば、現在でも有効です。取得した宮城県協会で「公認審判員登録番号」を確認なさったらよいかと思います。

しかし、取得以降現在までの間に、日本協会への会員登録をしていない年度があると無効となります。その際には「過年度登録」という制度がありますので、〝資格を取得した〟宮城県協会を通じて、さかのぼって登録してください。宮城県協会の連絡先はつぎのとおりです。

〒980 仙台市土樋1～3～1
東北学院大学学生課内
川内賢一気付

つづいて2級審判員資格の審査基準はつぎのとおりですので、この要件を満たしている場合には、都道府県協会を通じて申請なちってください。

『2級審判員の審査基準を次の通りとする。

(イ) 3級審判員として2年以上の経験を有し支部協会及び地区委員会の推薦のあるもので申請年度を含み2ヵ月以上継続して本協会会員であるもの。

(ロ) 審判経験は地区大会以上の3大会以上に参加したもの。』

公認指導員の資格について

学生のうちに公認指導員の資格を取りたいと思いますので、指導員になるなめの手続きなどを教えてください。

（松江市西川津町・清水隆人）

◇とりあえず、「日本バドミントン協会公認指導員資格審査規定」の審査認定基準をご紹介します。

『本委員会（指導委員会）の指導員資格審査規準を次の通りとする。

(1) 1級指導員は下記の項目のすべてに該当しているものとする。

(イ) 27歳以上の者で、2級指導員資格取得後5年以上バドミントン活動を指導し、本会が認める者。

(ロ) 本会が主催する講習会を受講し、所定の資格取得検定試験に合格した者。

(ハ) 本会1級公認審判員の資格を有すること。

(2) 2級指導員は下記の項目のすべてに該当しているものとする。

(イ) 22歳以上の者で、3級指導員資格取得後4年以上バドミントン活動を指導し、都道府県バドミントン協会が推薦する者。

(ロ) 本会が推薦する講習会を受講し、所定の資格取得検定試験に合格した者。

(ハ) 本会2級公認審判員の資格を有すること。

(3) 3級指導員は下記の項目のすべてに該当しているものとする。

(イ) 18歳以上の者で、本会または都道府県バドミントン協会が開催する講習会を受講し、所定の資格取得検定試験に合格した者。

(ロ) 本会3級公認審判員以上の資格を有すること。』

申請等については、すべて各都道府県協会を通じて行なうことになっておりますので、所属の協会へおたずねください。なお、島根県協会の連絡先はつぎのとおりです。

〒693 出雲市下横町950
島根県立出雲農林高等学校内
岸　一雄気付

地方のニュースを

毎日の編集活動ご苦労さまです。本県は全国でもトップクラスのレベルと思っています。残念ながら地元にはなかなか就職先もないために、中央に移り活躍している選手がほとんどです。

最近になってようやく、われわれ社会人の仲間が、バド界にも名を連ねるまでになり、自分としても興味をもってバド界を見るようになりました。

そこで私なりのバド界への希望なのですが、日本のトップ、世界のトップクラスの情報はあまり興味ありません。むしろ、中央・地方を問わず、底辺でがんばっているリーダー、愛好者のための情報をふやしていただけないでしょうか。

また、各地の話題をある程度紹介していただければと思います（自分もその情報提供にひと役買うつもりです）。

（酒田市山居町・佐々木健夫）

◇同様のご意見が多く届いています。昨年から〝特派員だより〟のページをもうけましたが、佐々木様にもぜひご協力いただきたいと思います。原稿用紙にタテ書きでお願いいたしますが、ご無理の場合は大会プログラムに成績を記入したものでもけっこうです。できれば戦評など短信、写真も添えていただければ幸いです。

カタログは？

日本バドミントン用品の総合カタログ（日本の全メーカーのもの）がほしいのですが……。

バドミントン界誌上で各チームの選手を紹介していただけないでしょうか（たとえば土田証雄選手のプロフィールなど）。

'79年の世界ランキングは？

WBF主催大会の記事ものせてください。また、「別冊」の刊行スケジュールはその後どうなっていますか。

（横浜市戸塚区・板橋　純）

◇カタログはそれぞれ各メーカーに請求するか、お近くのスポーツ用品店に問い合せてください。プロフィール紹介は企画として検討いたします。世界ランキングは発表されていませんが、全英選手権、マスターズ・オープン、ランダース・オープン、そしてワールドカップ'80がそのまま選手のランキングになると思われます。WBF主催大会についてはチャイナ・フューチャーズほかの情報収集につとめていますので、いずれご紹介いたします。「別冊」については、構成に満足いくものができず、もうしばらく延期さていただきます。

◇編集部からのお知らせ

本誌編集部へのご意見やお問合せ、出版物の未着等の確認などは、

必ずハガキで

お願いいたします。「読者と編集者」のページでご紹介した方には、記念品をお送りしておりますので、ご意見などをふるってお寄せください。

また協会の活動についてのご質問もお取り次ぎしておりますので、ご遠慮なくどうぞ。

あて先は、左記のとおり。

〒150 東京都渋谷区神南1－1－1
岸記念体育会館内
バドミントン界編集部

訃　報

神奈川県バドミントン協会会長の穴水清彦氏は去る昭和54年9月29日、じん不全のため東京都新宿区の東京女子医大病院で逝去されました。六十七歳。同氏は昭和五十年四月に同県会長に就任されました。謹んでお知らせいたします。

スターティング・バドミントン



すぐに役立つ決定版!!
絶賛発売中!!

バドミントン史上最強の天才プレーヤーが，その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――――――――!!

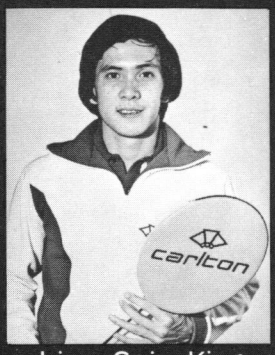
「本書は、ジュディ・ハッシュマンが豊富な経験をもとに、初心者向きに書いたものですが、さすがにジュディらしく、すぐ実戦に役立つように書かれています。

そのうえ、それぞれの目的に応じた練習法が紹介されているので、本書をただ最初から最後まで読み通すだけで満足することなく、目的意識をもった能率的な練習をするための必要な手引として、そのつどそのつど、コート上で利用する方が、よりいっそう効果が大きいと思われます。

また、たとえトップ・プレーヤーであっても、本書に書かれたジュディの試合に臨む考え方などは、大いに参考になるはずです」――――――――中山紀子

B5判変形・128ページ
定価1200円

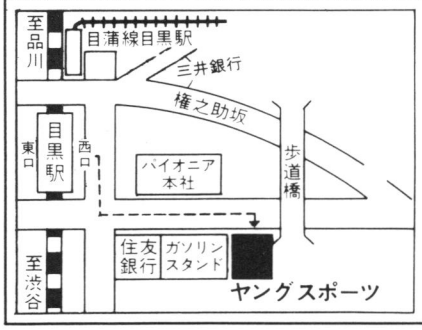
本書は全国書店のスポーツ書コーナーで発売中ですが、万一店頭にない場合は送料160円を加えて、本誌巻末の振替用紙をご利用のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。日本バドミントン協会出版局（03－467－3111）



Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝

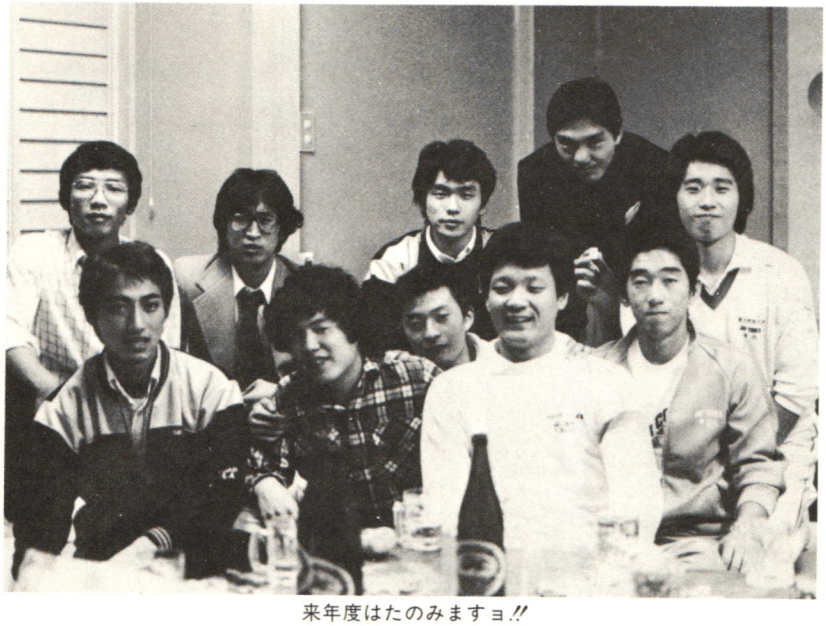
大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822



来年度はたのみますョ!!

インカレも佳境を迎えた4日目、戦いすんで陽が暮れて、やっと旅館に解放された、裏方さんこと学連の皆さんにお集まり願い〝楽屋裏から見たインカレ〟を語っていただきました。

あいにく、北海道、中・四国、九州の皆さんは早々と帰途につかれて欠席でしたが、残った人達は元気いっぱい。

従来のカラを打ち破るような、建設的な意見が飛び交い、初めの固い口調もどこへやら、大会同様、大変な盛り上がりを見せて、成果ある座談会となりました。

☆座談会・学生を支える屋台骨

若手の台頭を願って 地道な努力を!!

―新学連・大いに語る―

出席

全日本学生バドミントン連盟委員長	星野寛一
関東学生バドミントン連盟委員長	土谷亮男
中部学生バドミントン連盟委員長	長谷川義夫
関東学生バドミントン連盟副委員長	粕川一明
東北学生バドミントン連盟委員長	宝池大
関西学生バドミントン連盟委員長	山本公

〈司会・本誌編集部・赤星三樹〉

――今大会は、第30回ということもあって、開会式なども盛大に行なわれた訳ですが、まず、楽屋裏を担当する皆さんにとって苦労話、裏話といったものもあると思うので、感想などを含めて話してください。

星野　そうですね。第30回という記念すべき大会なので、開会式が盛大だったことは良かったですね。印象に残るような気がします。

今日で四日が終了したんですが、いろいろ細かな点で問題も出てきました。

土谷　開会式の規模が大きかったので、全国から集まってきているんだなあって感じになりました。そして、バドミントンという競技は時間がどれだけかかるか判らないので、楽屋裏としても難かしいなあ、と思いました。

それから余計なことですが、シャトルは1個三〇〇円位するので、審判が交換しにくる度に、随分勿体ないことしているんだなあって感じますね。（笑い）

こういう仕事は、選手のためを思ってやらなければならない訳ですが、逆に選手の方が我々のことを思ってくれることはないと思うので、これから苦労するんじゃないかと思います。

長谷川　我々の仕事は、大会が始まってからよりも、始まるまでが大変な訳で、そんな意味からもそれこそ縁の下の力持ちにならなければいけないのですから、難かしそうだなあ、というのが実感です。

粕川　僕は、インカレに参加したのは初めてなんですが、確かに開会式は楽屋裏も緊張していたし良かったんですが、大会の方はいまひとつ盛り上がりに欠けるような気がします。関東のリーグ戦なんかの方が、活気があるし……。

――そうだね。全日本クラスの大会では、インカレが一番淋しいかも知れないね。

宝池　来年は地元の仙台でやることになったんですけど、来年の開会式はこんなに立派にできるかなあ。（笑い）体育館も小さいし。

山本　今年のワールド・カップを神戸でやったときに、僕らは審判などで行ったんですが、確かに華やかさという点で、観客も少ないし……、宣伝をもっとした方がいいんじゃないでしょうか。

――ところで、今大会の地元選手の活躍ぶり、そして各地区の実情などを……。

土谷　よくいわれるように、関東はレベルが高いし、人数も多いし、嬉しいといえば嬉しいし、淋しいといえば、そこがまた淋しい点で……、でもやっぱりインカレなんだから、各地区の選手が勝ち上がって対抗意識を燃やさないと、面白くないです。最終的には関東の選手に勝ってもらいたいけど。（笑い）

長谷川　中部でダントツといわれる選手も、インカレに出てくると関東勢に圧倒されてしまって、力を出し切れないで終ってしまうケースが多いですね。ほかの地域と交流する機会も少ないし……。

宝池　東北も全員、すでに姿を消しました。なんかもう少し踏ん張れば勝てそうな試合もあったんですが、東北で天狗になっていたのが、インカレでは畏縮してしまって。

山本　関西の選手は、幸いまだ何人が残っているようなので、なんとか上位にくい込んで欲しいんですが。

土谷　関東では今年、東日本で筑波大の山本という選手が女子シングルスに優勝して、リーグでいえば下部校の選手が優勝したというんで話題になったんですが、三強の日体大、日女体大、東女体大の伝統校を尻目に、新設校の選手が優勝したということで喜ばしいことだったんです。伝統校を破る大学の台頭があって、また伝統校も奮起する。地域の場合も同じだと思うんです。

――これは大きな問題だね。

去年は大学のレベル低下が叫ばれて、インカレ上位の人達で強化合宿が行なわれたけれども、地域の問題は置き去りにされてる。これは高校の有望選手がほとんど東京の大学へ進学してしまうため、仕方ないといってしまえば仕方ないんだけれども、各地区のレベルを上げることはトップのレベルを向上させることにもなると思うんだ。

そこで提案なんだけど、年間の大会のスケジュールを消化させることだけでも学連は大変だ



関西学連の皆さん「ゴクローサマ」

と思うけど、全日本学連を中心にして、各地区の学連が協力し合って、地域のレベルアップを図るなにかいい案はないだろうか。

山本　関西では去年、メーカーにお願いして選手を派遣してもらい強化合宿をしたんですが、これからもなんらかの形でこれを受け継いで行こうと思っています。ほかの地域と協力し合ってもいいですね。

宝池　東北は毎年1度、北海道と選抜の定期戦をやっているんですが、最初の頃は活気があったらしいんですが、最近ではお金だけかかって意味がなくなってきたように感じます。

土谷　東北学院は青山学院と定期戦をやっていたよね。今でもやっているの？

宝池　うん、やっている。今年は全試合ファイナルになったりして、間違って勝つのもいたりして。（笑い）

粕川　ウチ（大東文化大）も龍谷大と定期戦をしているけど、2部の下位でも〝さすが関東だなあ〟なんていわれます。（笑い）もっと大きな大会を増やすことはできないかなあ。

土谷　それにはハッキリいって反対だな。まず第一にお金がかかる。第二に学連の仕事が増える。（笑い）それに急に大きなことをしようとしないで、今いった定期戦のような、小さいことから始めた方がいいと思うんだ。

星野　そうだな。実際、関東の1部校も合宿などは地方でやるんだし、それを見学にくるとか、参加するとか、どこの大学でもそれを嫌だとはいわないはずです。また普断の練習にも、地方から参加しにくるとか、我々はそれを仲介して、ある程度の面倒を見るようにする。そんなことから始めた方がいいような気がする。

長谷川　それに、強い選手をコーチとして呼ぶようなことをもっとした方が……。

――それも大事なことだね。高校と違って、特定のコーチを持たない大学が多いし、指導者をもっと大学へ呼ぶという風潮を作らなくてはね。

星野　それなら早速始めようか。例えば、今度の合宿に一流選手を2名派遣してくれ、という大学の要請に応じて、我々がパイプ役になって、選手を斡旋するといったように。

土谷　うん、それならできるね。

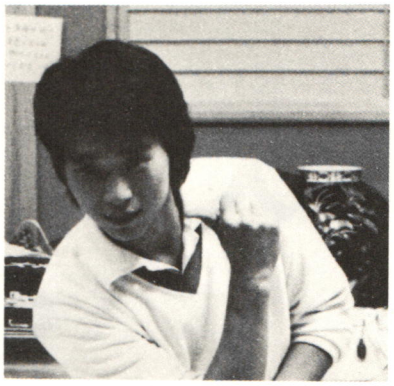
全員　（うなずく）

粕川　ウチも以前、中大の選手を呼んだんだけど、あの汚い体育館に快くきてくれたからね。

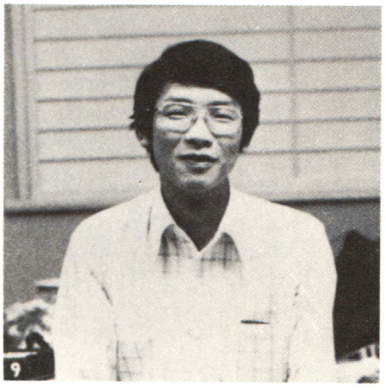
土谷　気軽にできていいね。お金も交通費ぐらいしかかからないし、電話で十分に用は足りるし……。じゃこれから、我々は関東の1部校にお願して、協力してもらえる体制を作らなきゃ。

全員　大いに宣伝して、利用してもらおう。

――思わぬ収穫があったところで、この辺でお開きにしたいと思います。皆さん忙しい中をどうも有難う。

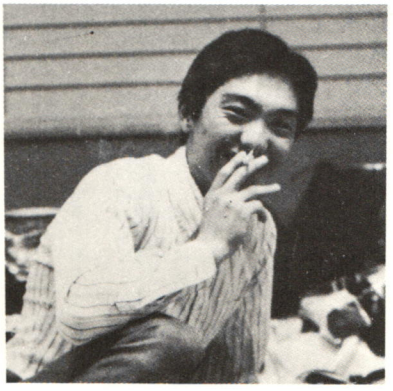


宝池クン



長谷川クン

山本クン



●関西秋季リーグ

近大、22連勝の偉業達成!!

女子は四条畷短が完全優勝

〈女子順位〉

優勝	四条畷短	5勝
2位	天理大学	4勝1敗
3位	武庫川女	3勝2敗
4位	大阪体大	2勝3敗
5位	大阪教育	1勝4敗
6位	仏教大学	5敗

またもや近大の優勝に終った。今季で11年22シーズン連続という快挙である。

年々弱くなったと言われながらも、これだけの快挙を成し遂げたことに対しては、素直に「おめでとう」と言わねばなるまい。

特に、最終日で決勝戦でもあった対大経戦で見せた、近大のチーム一丸となっての迫力というものは、完全に大経を圧倒していた。

この試合に、長年の伝統で培かわれた近大の「強さ」が、示されたといってよいのではないか。

実力では、五分と見られた大経は、本番での弱さ、特にダブルスにおける弱さが暴露され、技術的にはともかく、勝つ意欲に雲泥の差があったようだ。

大会前の予想で善戦が期待されていた京産大は、チームワークがよく、特に3年の金子・山田らの健闘が光った。

対近大戦では、金子が一番手の西川を破り、よもやと思わせる場面あった。

優勝もけっして不可能ではなかったようである。

また、今季の話題の一つといえば、竜大の鳳の活躍である。

チーム成績は、4位と振わなかったが、シングルスでの全勝、それも、すべてファイナルの接戦を打ち勝っており、また、対戦者も対大経戦では田島を、対近大戦では、竹本などの強敵を破っており、今後の彼の成長の大きなステップになるであろう。

今春、ひさびさに1部に昇格した関大は、各選手が、悪くいえば、「どんぐりの背くらべ」であったため、今後チーム全体を引っぱっていく存在が必要とされるところである。

そして、今大会の波乱といえば、同志社が全敗し、最下位になったことであろう。実力ではけっしてこのような成績に終るようなことはなかったのだが、今一つチームワークに欠けたようだ。

関西リーグ誕生以来、1部を保持してきた同志社にとって、ここは一つの修練場となろう。

一つ歯車が狂えば、とんでもない結果に終りかねない団体戦の恐ろしさを痛感させられた今大会であった。

〈男子順位〉

優勝	近畿大学	5勝
2位	大阪経大	4勝1敗
3位	京都産大	3勝2敗
4位	龍谷大学	2勝3敗
5位	関西大学	1勝4敗
6位	同志社大	5敗

昭和54年度秋季リーグ戦は、四条畷短大が1ポイントも落とすことなく、完全優勝を成し遂げた。

結果だけに目を移せば、戦前から予想されたことではあったが、ダブルス・シングルスとも他校と比べて次元の高い陣容であった言えるであろう。

注目されたのは、日の出の勢いで1部昇格を果した天理大学と、数シーズンにわたり2位の座を守り通してきた武庫川女子大との対戦であった。

天理大学は層の厚さでは劣りながら、阿部・吉川の活躍で勝利を収めその後も順調に勝ち進み、今季リーグに新鮮な空気を吹き込んでくれた。

天理大学の躍進は、この二人の活躍に負うところが大きいが、

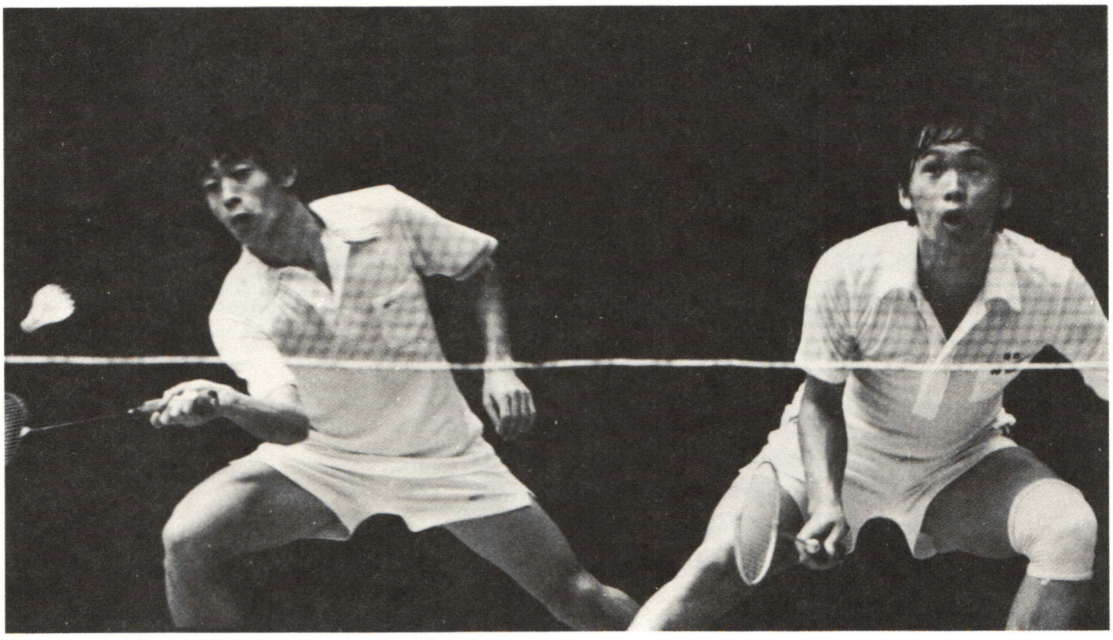
特にこれまでシングルスにおいて阿部に遅れをとっていた、吉川の成長が目を引いた。

武庫川女子大は、天理大学戦での網家、井口の主力が不調で、3位に甘んじたが、底力では天理大学を上回るものを持っているだけに、来シーズンに期待したい。

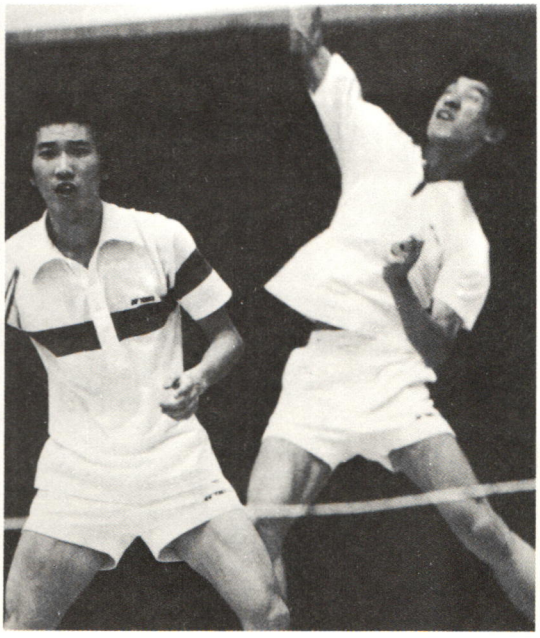
大阪体育大は、山中を中心としてまとまってはいるものの、力不足は否めず大阪教育大は、築田一人ではどうしようもないといったところか。

初めて1部に昇格した仏教大は1勝も出来ず、1部の壁は厚かったといったところ。

女子は、2部以下が力が接近しているため、混戦から抜け出して、1部校を脅かすチームが出てきてほしいものだ。







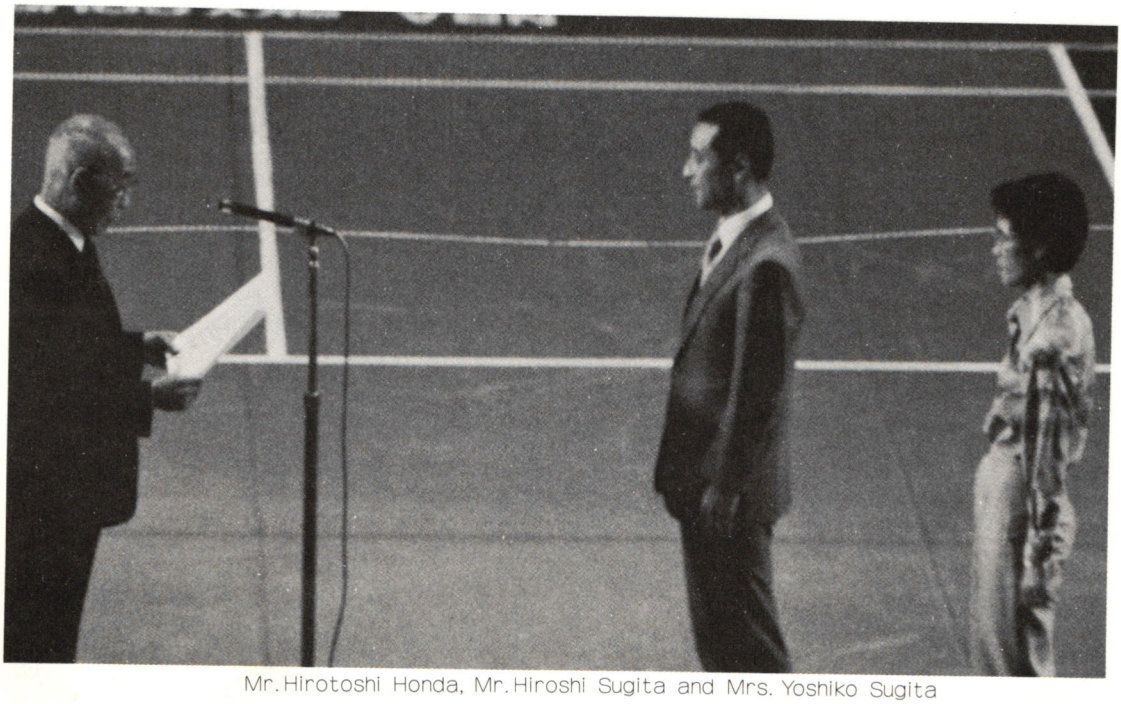
During the tournament, Mr.Hiroshi Sugita, who was participated more than twenty times, was given special recognition for participating in the All-Japan Badminton Championships the highest number of times. In the past, Mr. Sugita has been the runner-up two times each in the men's singles and doubles. With his wife, Yoshiko, he has also won the mixed doubles. Mr. Sugita is now a high school biology teacher but badminton is still part of his daily schedule.

Mr. and Mrs. Sugita stood side by side on the main court during the ceremony. First, Mr. Hirotoshi Honda, chairman of the tournament, presented them with a certificate of commendation. Then, as K. Zeniya and M. Tsuchida presented them with mementos of this occasion, the spectators broke into thunderous applause.

The First Badminton-Nippon-League began on December 8 and we'll give you the results in next month's issue.

Again, we would appreciate any news about your country from you readers abroad. Please send all letters to the following address. We look forward to hearing from you!

(Mr.) Sanju Akaboshi
Nippon Badminton Association
c/o Kishi Kinen Taiikukan
1-1-1, Jinnan, Shibuya-ku,
Tokyo, Japan 150



Mr.Hirotoshi Honda, Mr.Hiroshi Sugita and Mrs. Yoshiko Sugita

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Nakamura

Happy New Year! I hope that we can strengthen our bonds of friendship through badminton again this year.

To wind up 1979, the All-Japan Badminton Championships were held in Tokyo from November 29~December 2. Winning in this tournament brings tremendous prestige to the individual and the players battled furiously for titles in the men's and women's singles and doubles and mixed doubles.

Confusion and shock prevailed in the third round of the men's singles when Ippei Kojima, the strongest player in Japan's badminton history, was upset by the number one rated student player, Hiroshi Nishiyma. The 36-year-old veteran Kojima commented, "Nishiyama is still only 20 years old. His future looks very promising." Nishiyama, however, lost to T. Tsuji in the quarter final and was not able to place among the top four.

Kinji Zeniya finally captured the men's singles crown after defeating Masao Tsuchida in the finals.

The four top contenders in the women's singles were faces that are well-known not only here but to fans abroad as well – Hiroe Yuki, Saori Kondo, Atsuko Tokuda, and Yoshiko Yonekura. Yonekura, the youngest of the four, racked up her first victory by defeating the veteran Yuki in a close battle in the finals.

The sight of Yonekura, unable to control her tears but trying hard to answer questions for a television interview right after the match was impressive, but the spectators were just as deeply impressed with Yuki, whose performance on the court never gave an indication of her age.

In the doubles, the men's title went to Ikeda and Ozaki and the women's to Tokuda and Yonekura. To our disappointment, the top-ranked men's doubles team of Iino and Tsuchida was not in the best condition.

In the mixed doubles, Mrs. Etsuko Toganoo made a comeback and appeared on the court with her husband, Shoichi, as her partner. She had been away from tournament play since the birth of her daughter. The spectators cheered Mrs. Toganoo's return to the court, but there is no doubt that the most enthusiastic fan among them was her daughter, Yuko. The fruit of Yuko's cheering was victory for Mr. and Mrs. Toganoo.

In this way, with heated rallies being exchanged on each court, 1979's All-Japan came to an end, but there is one more item of news that must be conveyed to you.

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

マスターズ・オープン あれこれ

ロイヤル・アルバート・ホールでフレンズ・プロビデント・マスターズ・オープン選手権大会が開かれるまで、あの魅力的なデンマークの歯医者さん、リーン・コーペンがリーン・ロプケ夫人になっていると知っていたイギリス人はほとんどいなかったはずだ。

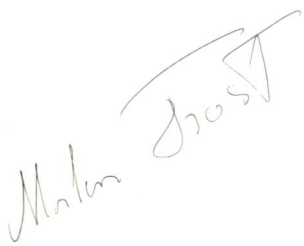
長い間友人であり、バドミントン仲間だったハンス・ロプケとの挙式は6月24日だった。二人がこの日を選んだのは？　デンマーク各地で毎年祝われる聖ハンス・デイだから。

ハンス自身はプレーをしないのに、リーンが大事な試合に出る時はいつもコート・サイドにその姿が見える。昨年の全英選手権のシングルス決勝で近藤小織を相手に第2ゲームを失なった時も、そこにいて、未来の妻を慰めたり、助言を与えたりしていた。そして、今回アルバート・ホールにも来ていた。

リーンはバドミントンでは旧姓で通したい意向だ。「私はリーン・コーペンとしてトップに登りつめたわ。バドミントンの後輩の人たちに私だってわかってもらえるためにプレーヤーとしてはこの名で通したい」と言った。その希望にそって、主催者は、スコアボードの名前をロプケからコーペンに変えた。

あいにく、リーンは参加登録の時にロプケと書いていたために、すでに出されていたプログラムの修正はできなかった。

リーンの父親エリクはかつての国際的なフットボール選手で長年センター・ハーフで鳴らしていた。



ハンセンのサイン

目に直撃

スピードのついたシャトルコックが顔に当るのは決して愉快なことではない。デンマークのフレミング・デルフスはグループCで同じデンマークのモルテン・フロスト・ハンセンと対戦中に、力いっぱいのスマッシュをその目に受けた。はげしい痛みばかりでなく、失明するのではないかという考えでゾッとしたのではないだろうか。

デルフスは第1ゲームを15―13で取り、第2ゲームは6―15で失なって、第3ゲーム9―13で必死に戦っている時のことだった。シャトルが当った瞬間、床にくず折れ、顔をおおって痛さにうめいていた、フレミングの弟と医者がただちに飛んでいった。

会場の全員が心配して見守ること数分、デルフスは試合を続行することにした。その目は赤く、涙が止めどなく流れていた。ハンセンを破って返り送くチャンスは消えた。この後2点を取られ、試合を失なった。

気の毒なハンセン。まったくの偶発事故ながら、仲のいいブロンドの朋友を傷つけたことですっかり気を転倒させていた。

しかし、夕刻デルフスは快方に向かい、ダブルスでハンセンと組んでレイ・スティーブンス＝マイク・トレジェット組と対戦できるようになった。

これから

イングランド・バドミントン協会とフレンズ・プロビデント生命保険会社は、もうすでに、第2回のマスターズ・オープンのアルバート・ホールでの開催の見通しを検討している。

同社の広報担当ジョン・マーフィはこう語った。

「関係者全員、今回の大会は大成功だったと思っています。同じ場所でまた開催する可能性について検討中です。できれば、一九八〇年の9月22日から始まる週ということにしてですが」

協会の広報担当者も同氏の意見をくり返して、こう語った。

「主催者、スポンサー、そしてプレーヤーたち自身に見られたプロ意識に支えられたこの大会こそが、バドミントンをいっそう高度で楽しいものにして、広く世界中に歓迎されることを可能にするのです」

握手はおあずけ

愛すべき、そして話し好きのデンマークのスヴェン・プリ。どう見てもお手上げという時、最後のラリーの終る前に、ネットに近づき、相手にお祝いを言うくせがある。

スウェーデンのトーマス・キールストロムとの第3ゲーム、4―14で激しいラリーの時、シャトルがバック・コートに落ちると思いこんだプリは、キールストロムに手を差し伸べながら前に出てきた。シャトルはベースラインをわずかに越えて、ラインズマンは両手を広げて「アウト」を宣した。

会場は拍手と笑い声にわき、スヴェンは幸運にびっくり、上きげんで笑いに加わった。

しかし、次のラリーはプリに味方せずゲーム・セット――おあずけの握手はやっとかわされた。

統計

ロイヤル・アルバート・ホールでの大会をみごとに取りしきったトミー・マーズがおもしろい数字を教えてくれた。4日間の会期中7500の観衆が入り、入場券の売上げは総額2万4000ポンド(約1200万円)になった。

「最初にしてはいいですよ。来年開催の予定が動き出せば、最初の2日間、ことに午後の部にもっと観客を動員するようにあらゆる努力が払われるでしょう。勝ち抜き(ノックアウト)試合と違って、総当り(ロビン)式の試合だと、好勝負は最初から最後までまんべんなくあるのだということを気がつかない人が多いのですね」

なわ飛びの時間

リーン・コーペンにとって準備運動は何よりも大事なことだ。ビューセコムと組んでの女子ダブルスの試合前、更衣室へ行く途中、なわ飛び用のロープを持っていた。

しかし、そのかいがなかったか、ノラ・ペリー＝ジェーン・ウェブスター組に、15―8、15―8と手ひどい負けを喫した。

ベリーのサイン



ラケット張り

魅力的な日本のスター、近藤小織は、大きなスコアボードの下の選手席で、大変手ぎわよく静かに自分のラケットのガットを張っていた。

自分の体内から緊張を取り出して、それをガットに込めようというのだろうか?

少さなスクリーンから

「今日の午後バドミントンがあるんだ」朝刊のかげから興奮した声。まるでこれまで秘密だったみたいだ。世界で初めてのオープン大会。とうとうきたか、アルバート・ホールで、それにカラーでテレビうつりのいいこと。グリーンのコートに、周囲は赤と紫、花も飾られている。テレビ観戦者の望むのはこれ。プレーのこまかい点はそこそこにして、それよりも人間とその周辺を見たい。

木曜日は1セッションだけのリハーサル並み、家庭の主婦や年金生活のご老人向けのようだ。お年寄りだって昔はバドミントンをやったことはあるさ。

金曜日は午後の部と夜の部。午後、ほっそりとしたリーン・コーペンが世界チャンピオンにふさわしく湯木博恵を破った。リーンにはもう一度観たいと人に思わせるような何かがある。超一流のプレーヤーの特点をすべて持っているうえに個性的だ。彼女があの笑顔を見せると、こっちは本当にはっとして、じっと見入ってしまう。

バドミントンの役員が力強い口調で、新しいプロフェッショナリズム、その目的や希望など。どれも興味なし、できれば目標達成に頑張っているプレーヤーたちに聞かせてやりたかった。

スティーブンスのサイン



リーンがコーペンを破った。人はいろいろ言うだろう。しかし、ギリアンの率直さとスマートな服装には点を入れねばなるまい。実際、服装に新鮮な独創性を見せた唯一人の女子選手だ。ストライプのセーターとすてきな色の袖がことによかった。

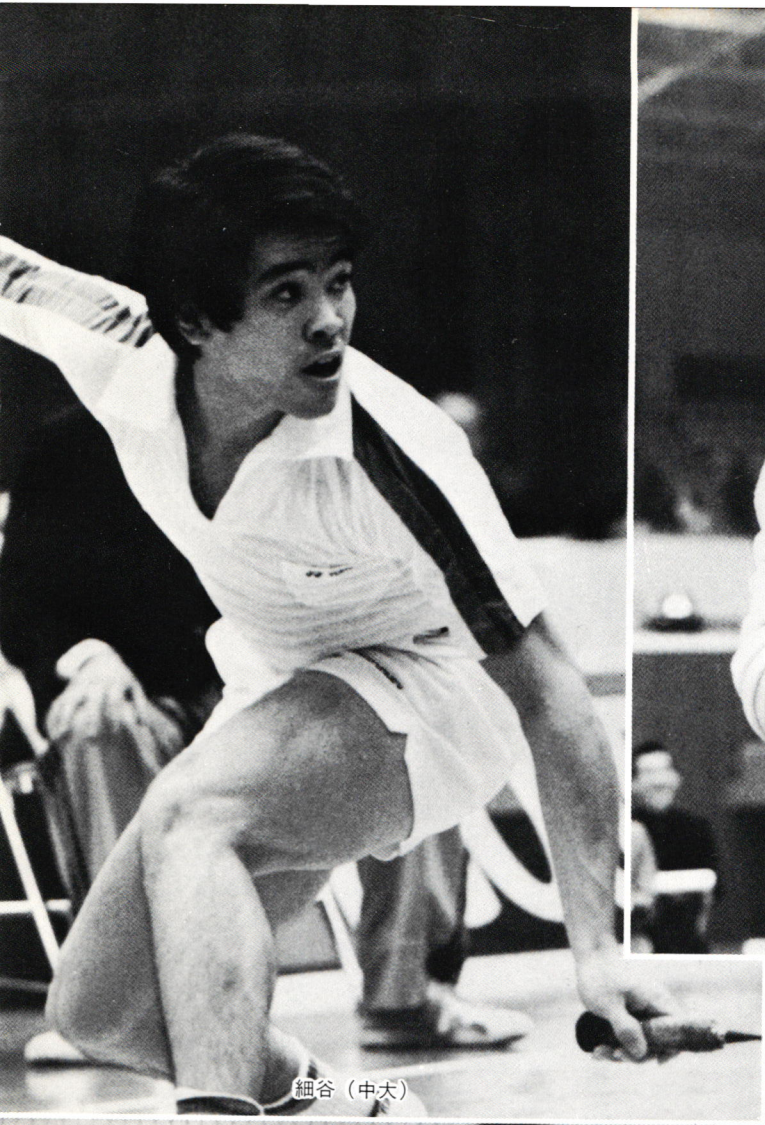
試合中白を着ていたリーンはその後、すばらしいトラック・ジャケットに着替えた。あれを着てプレーをすればよかったのに。

プラカシュ・パデュコーンとフロスト・ハンセンは、夢中になって観ている家族にどんな印象を与えただろうか? 二人ともハンサムで、見るからに力強く、悩みのかげなどかけらもない。プラカシュはインドのNo.1、今に世界中にはばたいて、ビョルン・ボルグのように一財産作るだろう。彼が低いリカバリーショットを打つ時、フランク・デブリンを思い起こさせる。

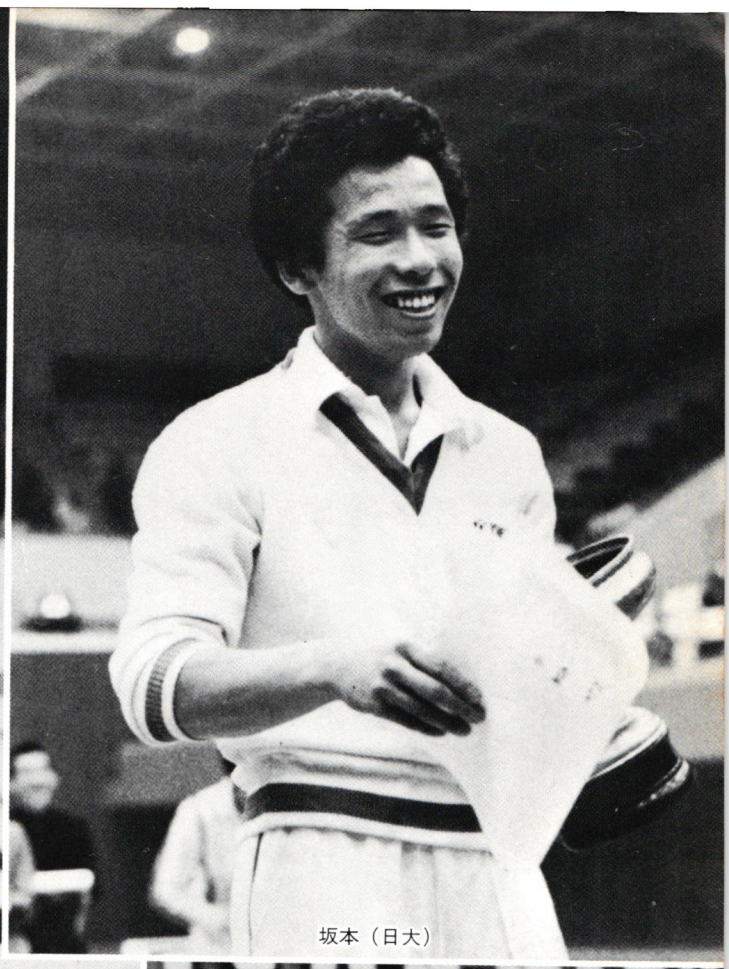
リム・スイ・キンほかのインドネシア勢を欠いたが楽しめる、価値ある大会だった。

(ジョン・ヴィンセント)

(〝バドミントン〟11月号から)



細谷（中大）



坂本（日大）



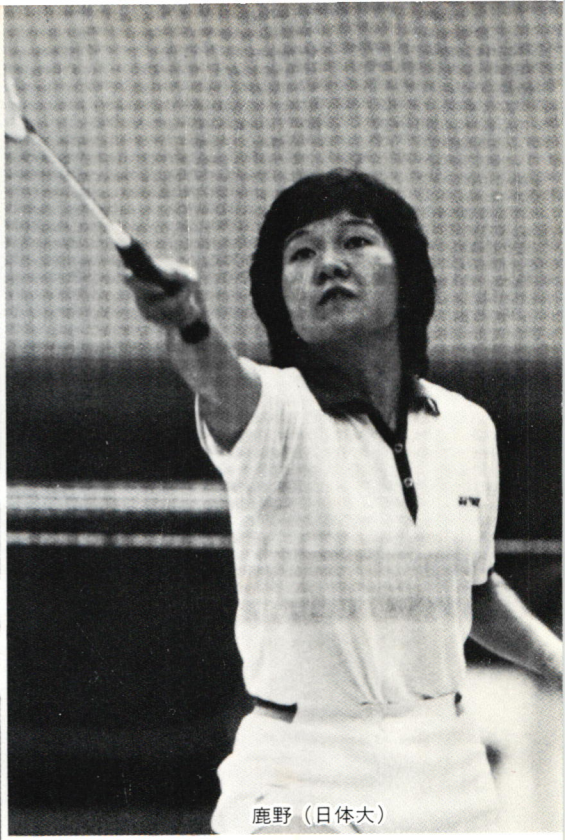
林田（青学大）



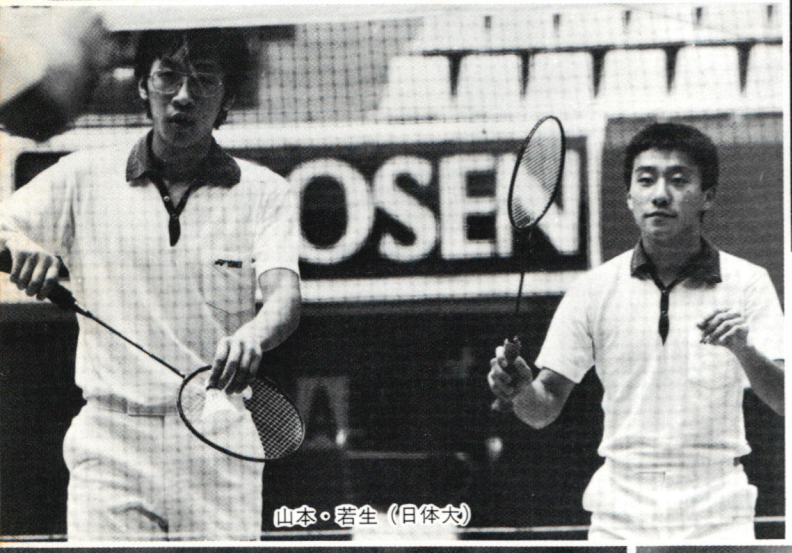
酒井（法大）



浅沼・沼沢（日体大）



鹿野（日体大）



山本・若生（日体大）

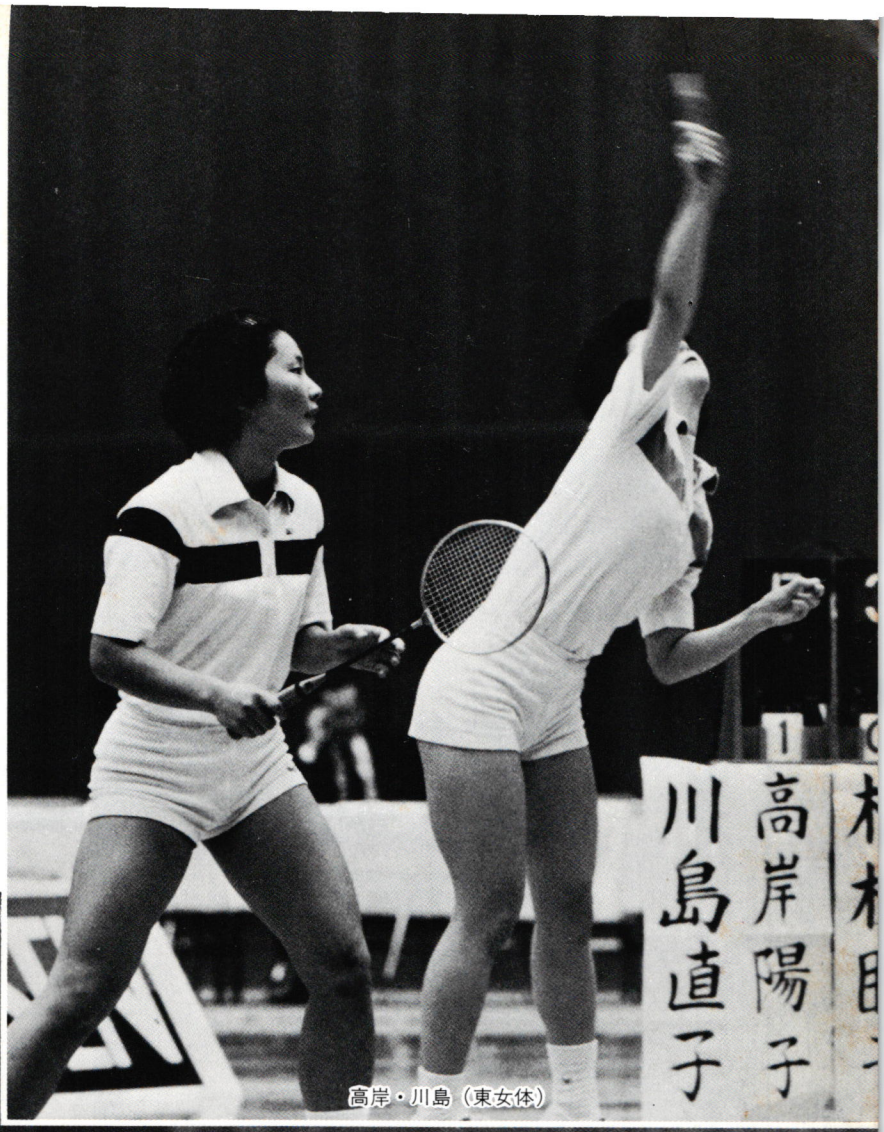
'79 インカレの顔



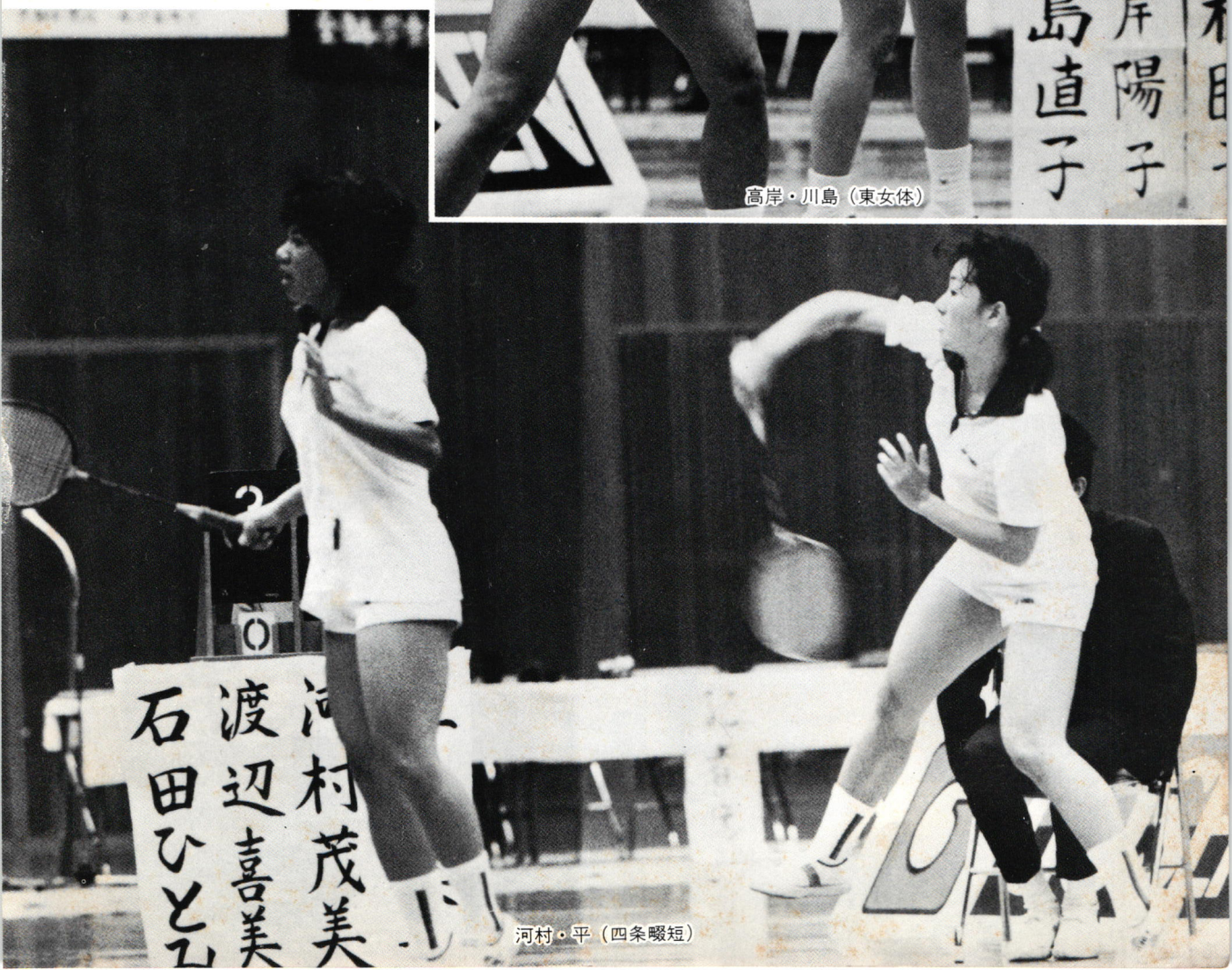
石田（日女体大）



月岡（新潟青陵）



高岸・川島（東女体）



河村・平（四条畷短）

carlton
That's the name of the game

リム・スィー・キング 世界を制す！

Liem Swie King（インドネシア）

- 男子シングルス世界ランキング１位
- '78全英選手権男子シングルス優勝
- '79全英選手権男子シングルス優勝
- '79ワールドカップ男子シングルス優勝
- '79アジア大会男子シングルス優勝
- '79トマス・カップにダブルス，シングルスに出場
  インドネシア優勝の原動力となる。



使用ラケット　カールトン3.7（写真左）　トーナメント（写真右）
重量115ｇグリップ３½インチ　'79全国中学生大会使用球



kawasaki

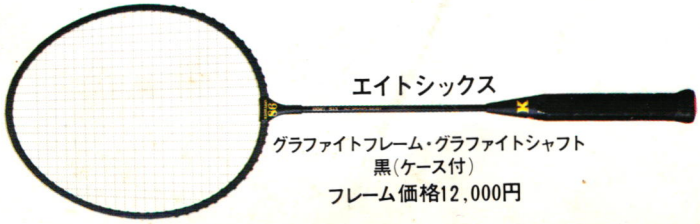
河崎ラケット工業株式会社



グラファイトシリーズ

世界初のオールグラファイトラケット

バドミントンラケットも確実に進化しました。



エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円